

三協立山グループ

# CSR報告書2019

Sankyo-Tateyama Group

Corporate Social Responsibility Report



# Life with Green Technology

## 『環境技術でひらく、豊かな暮らし』

三協立山グループの技術力を集結し、  
環境配慮型商品・素材・空間によって新しい価値を創造し、  
人々の豊かな暮らしを実現する企業グループへ。



「ARM-SUシリーズ[U+タイプ]」  
自然換気窓「風力すべり出し窓」



高断熱玄関ドア  
「PRONOVA(プロノヴァ)」



照明  
「ワンダーライト(DC12V・24V)」



大型ヒートシンク



外照式サイン用  
LED電装ユニット/アドビューL

# を実現する企業グループへ

## Contents

ごあいさつ	P. 3	人間尊重	P.25 ~
特集(DI窓)	P. 5 ~	環境との調和	P.27 ~
特集(マグネシウム車両構体)	P. 7 ~	三協立山 会社概要	P.41
健全な企業活動	P. 9 ~	第三者意見	P.42
社会との調和	P.20 ~		



### 持続可能な開発目標

(SDGs:Sustainable Development Goals)

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2015年9月、ニューヨーク国連本部において、193の加盟国の全会一致で採択された国際目標です。社会が抱える問題を解決し、世界全体で2030年を目指して明るい未来を作るための17のゴールと169のターゲットで構成されています。



## 「ものづくり」をはじめ、事業活動のあらゆる領域で社会に貢献します。

### 培ってきた技術を生かし、「ものづくり」で社会に貢献

三協立山グループにとって大切な社会的使命は、やはり「ものづくり」です。地球環境や社会との調和を図りながら、暮らしに役立つ「新しい価値」を創造していくことこそ、総合建材メーカーである私たちの重要な任務です。「Life with Green Technology～環境技術でひらく、豊かな暮らし」というブランドメッセージには、そういった思いが込められています。

例えば、当報告書で紹介している「DI窓」は、従来の断熱の概念を覆す新しい考え方に基づき開発した高断熱窓であり、換気を必要とする高気密住宅の空調エネルギーを削減することができます。また、2019年に発売したARM-S「風力すべり出し窓」は、自然の風の力を利用して快適な室内環境を保つ、省エネルギーに優れた製品です。このように、私たちが培ってきた「窓」に関する豊富な知見・技術を生かして「新しい価値」を生み出し、世の中にお届けしてまいります。

また、当社グループでは、アルミで培った押出成型技術をマグネシウムにも応用しています。マグネシウムは強靱かつ軽量であるため、自動車や鉄道車両に用いることで車体の軽量化を図ることができ、ひいては省エネルギーが期待されます。現在、国の主導により、マグネシウム合金製の新幹線車両構体の試作が進められていますが、当社はこのプロジェクトに参画し、将来の実用化に向けて研究開発に取り組んでいます。

### 環境にやさしい事業活動で、地域と地球に貢献

三協立山グループは、立山連峰を望み富山湾に面した自然の恵みあふれる地域で「ものづくり」を行っています。「創ろう美しい地球を」という私たちの環境スローガンも、地域社会の環境を守ってこそ意味のあるものだと考え、日々の事業活動において、温暖化ガスや有害物質の排出抑制、廃棄物の削減などに計画的に取り組んでいます。

2018年度は、温暖化ガス排出削減、廃棄物の削減など、主項目で目標を達成しており、今後もいっそう環境にやさしい事業活動を実現してまいります。

### CSR活動で、持続可能な開発目標(SDGs)に貢献

当社グループは、「健全な企業活動」「社会との調和」「環境との調和」「人間尊重」をCSRの4原則として定め、「CSR憲章」として明文化し、CSR活動に取り組んでいます。

近年、国連が採択した持続可能な開発目標(SDGs)に対する社会の関心が高まっていますが、この開発目標は、当社グループのCSR活動が目指すものと重なる点が多くあります。すなわち、私たちの日々の事業活動において、CSRの4原則を念頭にして取り組むことで、SDGsに貢献することになると考えています。

今後も、文明社会の持続可能性を幅広い見地からとらえたSDGsに貢献し、社会の役に立つ存在であり続けるために、私たちのCSR活動をいっそう意義あるものとしていく所存です。



代表取締役社長

山下 清胤



## 経営理念と行動指針

三協立山グループは、創業の原点である「お客様」「地域社会」「社員」の三者が協力し、共栄するという協業の精神に基づいた経営理念のもと、健全な企業活動を通じて社会に貢献していくことが、私たちの使命であると考えています。

### 経営理念

お客様・地域社会・社員の協業のもと、新しい価値を創造し、お客様への喜びと満足の提供を通じて、豊かな暮らしの実現に貢献します。

### 行動指針

私たちは

#### ①お客様満足

常にお客様の視点に立ち、誠実に対応することで、信頼される存在であり続けます。

#### ②価値創造

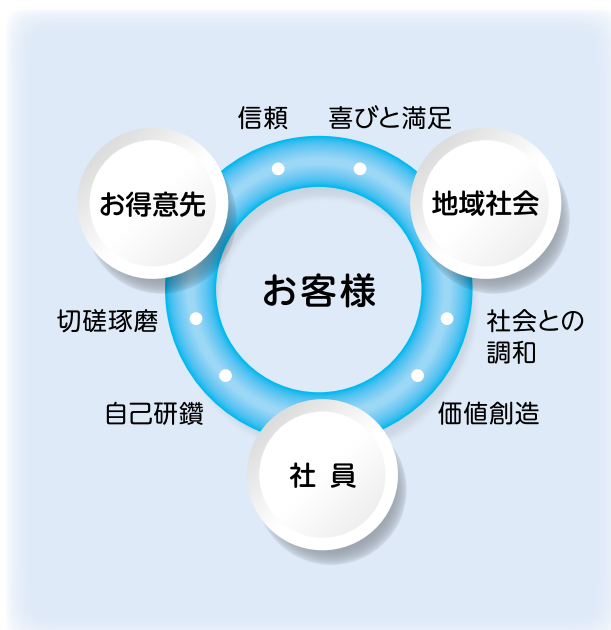
技術と知識の向上に努め、新たな製品の開発とサービスの提供にたゆまず挑戦し続けます。

#### ③社会との調和

環境、地域社会、人との調和を考えて行動し、人と自然にやさしい企業であり続けます。

#### ④自己研鑽

自己研鑽に励み、互いに切磋琢磨し、働き甲斐のある企業風土を育みます。



## CSR憲章

### 総則

三協立山グループは、社会から信頼されながら、かつ継続的に発展することを望まれる企業となるため、企業の社会に対する責任（CSR: Corporate Social Responsibility）を果たす以下の4つの原則に基づいて行動します。

**CSR**  
Corporate Social Responsibility

企業の  
社会的責任

### 原則

#### [1]健全な企業活動

- ①お客様の立場で行動し、お客様の立場に立った商品・サービスを提供します。
- ②法令・企業倫理等を遵守し、公正で自由な競争を行うとともに、公的機関とは透明かつ厳正な関係を維持します。
- ③会社に不利益となる行為を禁止し、反社会的勢力に対しては、毅然とした態度で臨みます。
- ④会社の情報、財産、資産およびお客様の情報は、厳重かつ適正な管理を行います。

#### [2]社会との調和

- ①国内外の文化・習慣を尊重するとともに、社会貢献活動を積極的に行います。

#### [3]環境との調和

- ①自ら責任を持ち、環境保全活動に取り組むとともに、積極的に地域活動に参画し、社会に貢献します。
- ②環境負荷の少ない商品を優先的に提供するとともに、積極的に技術革新の活用を図ります。

#### [4]人間尊重

- ①全ての人々の基本的人権を尊重し、安心して健康な働きやすい職場環境を築きます。

# 窓と換気のハイブリッド化により超高断熱性能を実現した三協アルミ「DI窓<sup>※1</sup>」が、「平成30年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰<sup>※2</sup>」を受賞。

※1 Dynamic Insulation Window (空気を動かすことで断熱性を高めた窓)

※2 「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」とは、環境省が毎年、地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人または団体に対して、その功績を讃えるため行っているものです。



INTERVIEW

**発想の転換で、窓の断熱性能が外壁を超える! 窓の新しい形です。**

窓や壁の断熱性能を示す「熱貫流率」、[DI窓]の熱貫流率は、最高で $0.2\text{W}/(\text{m}^2\text{K})$ と、一般の樹脂サッシの10倍近い性能を持ち、「200ミリ厚の断熱材を充填した外壁」に匹敵します。

外壁同等の断熱性能を持つDI窓なら、住宅の壁一面すべてを窓とする開放的なゼロエネルギー住宅も可能です。「DI窓」は断熱性能で、窓の新たな形・可能性を生み出します。

三協アルミ社  
技術開発部スマート技術課  
朝岡 幸康







## 「DI窓」とは

外窓と内窓の上部に換気スリットを設け、外窓と内窓の間に断熱ブラインド(または整流板)を設けています。外気を外窓の上部から取り入れ、二重窓(外窓と内窓)の内部を循環させて室内に取り込むことで、窓から逃げる熱を空気で回収し、冷たい外気を暖めて室内に取り入れることが出来る、これまでにない新しい窓です。

このDI窓は、当社と3大学(東京大学、明治大学、前橋工科大学)の共同研究の枠組みで、NEDOの助成事業「戦略的省エネルギー技術革新プログラム」にて開発しました。

NEDO: 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

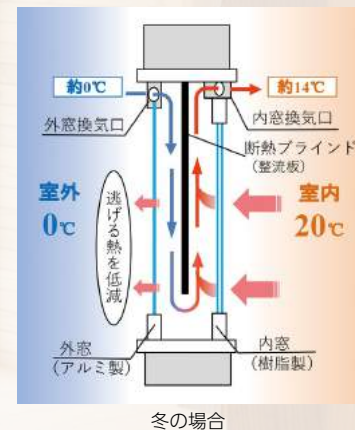
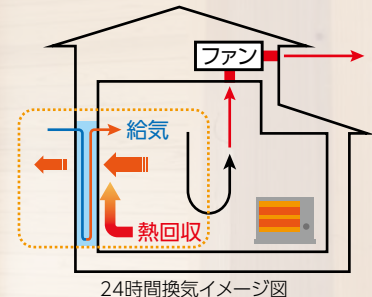
## 窓と換気のハイブリッド化による効果

住宅の換気は、通常外壁に設けた穴(給気口)から外気を取り入れますが、「DI窓」は、この換気を二重窓の中を通して行うことで、窓と換気の双方にメリットを生み出します。

冬を例にして説明すると(右図)、住宅の24時間換気の駆動力で、外窓上部の換気スリットから入った冷たい外気は断熱ブラインドに当たってガラスに沿って下降、内窓から逃げようとする熱を吸収し、暖められて上昇、内窓上部の換気スリットから室内に入ります。

この「空気の流れ」によって、窓から外に逃げていた熱を大幅に減らすことで「窓の高断熱化」が可能、同時に、窓で暖められた空気を室内に入れることで「寒くない換気」が可能となります。これが窓と換気のハイブリッド化による大きな効果(メリット)です。

今後「DI窓」は、ZEH(ゼロエネルギー住宅)などの高性能住宅や、ZEH-M(ゼロエネルギーマンション)などこれから普及する高性能なマンションでその真価を発揮します。



### 》実験住宅に設置された「DI窓」

全く新しい方法で断熱性を高めている「DI窓」は、開口部の新技術を開発するための実験住宅で、年間を通した性能評価と運用について、実地試験を繰り返して開発しました。

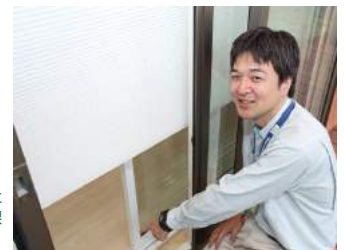
なお、この住宅は横浜市で開かれた「エネマネハウス2015」で展示された山口大学の「やまぐちさんの風の家」を当社敷地内に移築したものです。

## INTERVIEW 技術で地球温暖化防止に貢献する窓です。

素晴らしい製品でも、実際に使われている環境で性能が発揮できないと市場には出せません。そこで、実験住宅における「DI窓」の省エネ効果の評価に多くの労力を注ぎました。

その結果、「寒冷地では、暖冷房負荷を30~40%削減できる」「温暖地や蒸暑地では、暖冷房負荷を40~50%削減できる」といった効果を検証できました。

三協アルミ社  
技術開発部スマート技術課  
藤園 武史



# 難燃性マグネシウム合金を用いた世界最大級の 高速鉄道車両部分構体(ボディ)の 試作に三協マテリアルが貢献

三協マテリアル社は、本プロジェクトにおいて、用途に適した難燃性マグネシウム合金の開発及びその押出成形技術の開発を担当しています。

## アルミ製に比べて約3割の軽量化を実現

鉄道車両のボディ(構体)は一般に、普通鋼やステンレス鋼が用いられています。また、軽い、腐食しにくい、リサイクルしやすいなどの理由から、アルミ合金も多く用いられています。また、アルミ押出形材を構造材にすると強度部材を兼ねることができ、さらなる軽量化、ひいては高速化を実現できるため、近年の新幹線ボディにはアルミ押出形材が多く採用されています。

アルミ合金よりも軽かつ強い、優れた素材としてマグネシウム合金があります。しかし、マグネシウム合金はこれまでノートパソコンやスマートフォン、医療機器などには用いられてきましたが、鉄道や自動車などの輸送機器にはほとんど使われていません。それは、純マグネシウムの発火温度が400°Cと低く、この欠点を補うためにカルシウムを加えて難燃性を高めると成形しにくくなってしまいう課題があるからです。

そこで、NEDOおよびISMA(新構造材料技術研究組合)では、マグネシウム押出形材を構造材とする鉄道のボディを開発するため、非鉄金属メーカーや車両メーカーなど11機関のノウハウを結集し、鉄道ボディに最適な難燃性マグネシウム合金や、その接合技術および表面処理技術の研究開発に取り組んでいます。本プロジェクトは、2013年度にスタートし、優れた成形性を持つ難燃性マグネシウム合金の開発をはじめ、側パネル(窓枠周り)の試作を行ってきました。そして2017年度には新幹線と同一断面サイズの構造体の試作に成功しました。

今回試作されたボディは長さ1メートルですが、今後は段階的に延長し、また前後の開放面を閉じた6面体も製作する予定です。本プロジェクトでマグネシウム合金押出形材による鉄道ボディ製作の基礎技術を確立し、将来の実用化につなげていく考えです。

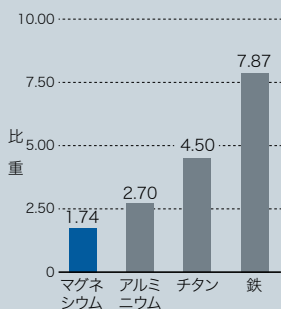
## ■ マグネシウム合金とは

軽くて強いほかさまざまな面で優れた合金ですが、生産が難しい、燃えやすいという課題があり、現在は用途は限られています。三協マテリアル社では、合金の生産から押出加工までの技術開発を行い、課題を克服、用途の拡大に取り組んでいます。

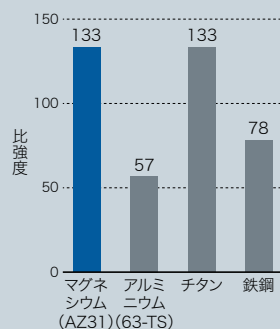
### ■ マグネシウム合金の特長

- 軽量(比重1.74=純マグネシウム)
- 比強度(引張強さ/比重)が高い
- 耐くぼみ特性が良い
- 振動吸収性(減衰性能)に優れる
- 放熱特性が良い
- 電磁波シールド性(電磁遮蔽性)が高い
- 切削性に優れる
- リサイクル効率性(低温で溶解・省エネルギー効果)が高い

■ 各種金属の比重



■ 各種金属の比強度







現在は長さ1メートルの部分構体(ボディ)ですが、将来は25メートルの新幹線と同じ長さを目指します。

## INTERVIEW

**新幹線のさらなる軽量化、省エネ化に貢献します。**

押出成形性に優れた難燃性マグネシウム合金の開発では、添加物であるカルシウムなどの配分を最適なものとするため、試行錯誤を繰り返し、燃えにくく、押出成形しやすい合金を開発しました。(松本 泰誠)

押出成形技術の開発で苦労したのは、強度と生産性を両立できる断面構造の考案です。マグネシウム合金押出形材は強度を考慮してトラス構造の断面を採用しています。しかし、設計会社が望むような厚さや構造では効率よく押出成形できないため、当社で断面構造を考案し、設計会社に提案、試作品で強度テストを繰り返して採用に至りました。(蟹谷 駿)



(左)  
三協マテリアル社  
製品技術部  
マグネシウム技術課  
**松本 泰誠**

(右)  
三協マテリアル社  
製品技術部  
マグネシウム技術課  
**蟹谷 駿**

## ■ CSR※活動の推進 ■

三協立山グループは、CSRを経営の最重要課題と位置付け、CSRの推進により、社会からの信頼確保に努めています。

※CSR：Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任)

### CSR活動実績

CSRにかかわる活動は、関連部署で各々推進しています。

2018年度の主な活動項目は、下表の通りです。2019年度も関連部署でCSR活動に取り組み、レベルアップを図っていきます。

CSR憲章	要素/活動項目	目標・方針など	実施事項	評価	該当ページ	SDGsゴール
健全な企業活動	1. CS(Customer Satisfaction:顧客満足)/顧客満足向上活動の推進	CS意識向上と行動の徹底	○CS単位活動に248チームがエントリーして活動を推進 ○優秀事例を表彰して社内公開し、水平展開を図る	☀	P21	
	2. 顧客要望に応える商品の提供/使いやすさを追求した商品の提供	UD設計検討書、ユーザーチェックリストでの評価実施(UD:ユニバーサルデザイン)	○UD設計検討書、UDユーザー評価会で11テーマについて評価を実施	☀	P13	
	3. コーポレートガバナンス/企業統治や意思決定を行う仕組み構築	コーポレートガバナンスコードの尊重 コード対応への機関設計・仕組み作り	○改定コーポレートガバナンスコード対応として、コーポレートガバナンス基本方針を改定しHPで公開	☀	P10	
	4. リスクマネジメント/リスク管理の強化	リスク管理の有効性効率性の確保	○本社体制の継続的整備と子会社管理体制の適正化を実施	☀	P10	
	5. コンプライアンス/CSR・コンプライアンスの再徹底	CSR・コンプライアンスの理解度の向上	○営業管理者研修会、新任支店長・工場長研修会を実施 ○従業員向けコンプライアンス情報誌を隔月発行	☀	P11	
	6. 情報セキュリティ/お客様情報の管理の徹底	お客様情報漏洩事故発生件数ゼロ	○個人情報などの漏洩事故なし ○セキュリティ教育動画の視聴やウイルスメール訓練を実施	☀	P12	
社会との調和	1. コミュニケーション/ステークホルダーとのコミュニケーションの充実	四半期決算に則した投資家対応の強化	○四半期ごとの決算短信をホームページに掲載 ○機関投資家との個別ミーティングによる業績説明を実施	☀	P23	
	2. 社会貢献/地域に根ざした社会貢献活動の推進	積極的な参加	○とやまマラソン2018などのイベントへ協賛 ○高岡・射水地区自衛消防訓練大会、富山県「交通安全チャレンジ1・2・3運動」などに参加 ○森づくり活動、保育園環境教室、清掃活動などを実施	☀	P24、33	 
環境との調和	1. 環境保全/環境保全活動の推進	CO <sub>2</sub> 排出量原単位 2017年度比 1%以上削減	○CO <sub>2</sub> 排出量原単位 2017年度比 1.9%削減	☀	P30	  
		産業廃棄物排出量原単位 2017年度比 1%以上減	○産業廃棄物排出量原単位 2017年度比 4.5%削減	☀	P31	  
	2. 環境商品・技術/環境配慮商品の開発推進	断熱性能向上商品、換気・通風に配慮した商品開発の推進	○断熱5商品、自然採風3商品を開発	☀	P14~15	    
人間尊重	1. 組織・人づくり/ダイバーシティの推進	障がい者雇用率2.2%以上	○障がい者雇用率 2.18% ○中途採用障がい者の就労状況を確認しサポートを実施	☁	P25、26	  
			2. 安全衛生/心身の健康度の向上	ストレスチェック受検率 95% ○メンタルヘルス不調者に対するカウンセリングサービスを整備	☀	P26

☀ 目標・方針など達成 ☁ 目標・方針など未達

## ■コーポレートガバナンス※■

三協立山グループは、株主及びその他ステークホルダー、社会からの信頼を築き、共に発展していくことを経営の基本方針としており、そのために、コーポレート・ガバナンスの強化を図り、企業価値の向上に努めることが、経営の重要課題の一つと位置づけています。

具体的には、グループ経営計画及び経営戦略を策定し、グループ会社の指導・監督を行うとともに、ステークホルダーへの説明責任を果たし、透明性を確保していくことが当社の重要な役割であると認識しています。また、当社が担う事業領域と機能の中で明確な事業責任を負い、市場競争力をより一層強化することでグループ全体の価値向上を図っていきます。

なお、当社は、監査等委員会設置会社であり、監査等委員会設置会社制度下における内部統制システムの基本方針に基づき、当社及び当社グループにおけるコーポレート・ガバナンス体制を強化しております。

※コーポレートガバナンス：企業統治

### コーポレートガバナンス体制の状況

#### 企業統治の体制の概要

取締役会は現在、取締役14名（うち監査等委員である取締役5名）で構成され、当社グループ及び当社の経営に関する重要事項の審議と決定を行っております。

当社は、執行役員制・事業役員制を導入し、業務執行責任の明確化と意思決定の迅速化を図っております。また、事業年度に関する責任を明確にし、緊張感を持って経営にあたることも、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を構築するため、取締役（監査等委員を除く）及び執行役員ならびに事業役員の任期を1年としております。取締役会は代表取締役社長が議長となり、事業の状況把握を迅速に行うため、当社の社内カンパニーである三協アルミ社、三協マテリアル社、タテヤマアドバンス社の各カンパニー社長と国際事業の代表が出席しております。

また、当社は取締役会構成員のほか、各事業責任者及び部門統括責任者で構成する経営会議を設置し、当社経営の基本方針に関する事項ならびに個別重要事項についての審議、決定と情報共有を行っております。

監査等委員会は監査等委員である5名（うち社外取締役3名）で構成され、取締役会をはじめ主要会議体への出席や重要な決議書類を閲覧し、取締役の業務執行に関して適法性と妥当性の監査に努めるとともに、経営トップと定期的に会合を持ち意見交換を行っております。また、グループ各社の監査役と連携を図り、企業集団全体の監査環境の整備に務めております。

当社は、取締役会の諮問機関として、任意の指名委員会を2018年12月、報酬委員会を2019年5月に設置いたしました。各委員会は、社内取締役2名、社外取締役3名で構成され、社外取締役が議長を務めております。同委員会での審議を通して、取締役の選解任や報酬の決定に関する客観性と透明性を高めることに努めております。

### 内部統制、リスク管理体制の状況

#### 内部統制システムの構築・運用、J-SOXへの対応

当社は、取締役会決議による「会社法内部統制システム基本方針」に従い、グループ全体で内部統制システムの充実を図っています。

当社および当社グループの実効性ある内部統制システムの構築を図るため、経営会議の中に内部統制委員会を設置し、諸施策の審議および実施状況の管理を行っております。また、金融商品取引法に基づく内部統制報告制度（J-SOX）に対応するため、財務報告の信頼性を確保する内部統制の評価ならびに整備推進支援を経営監査部が継続的に実施しています。

#### リスク管理の基本的考え方と体制の構築

当社は、リスク管理の実践を通じ、事業の継続・安定的発展を確保していくことをリスク管理の基本方針としています。

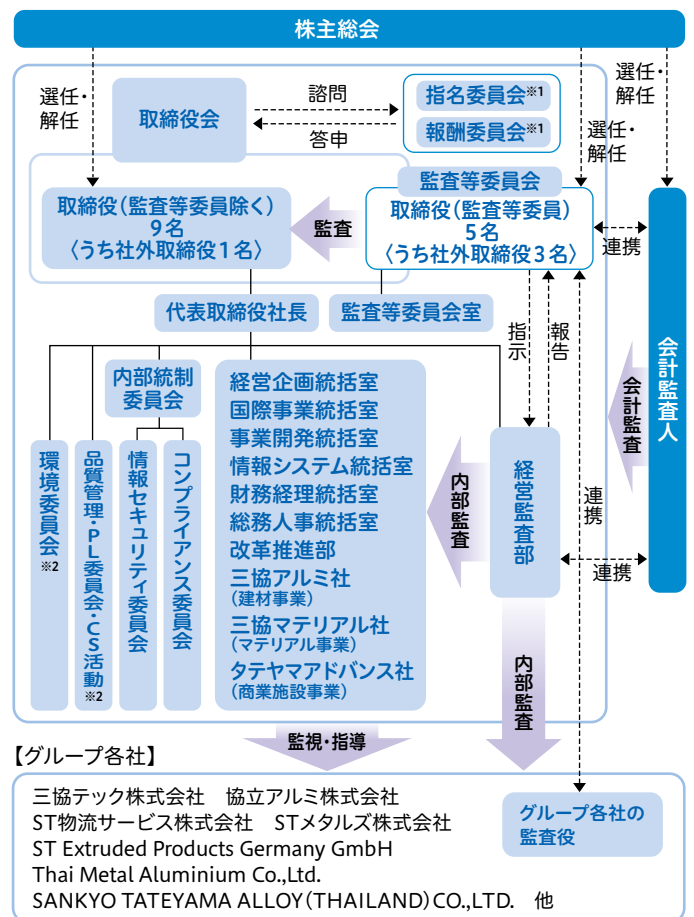
内部統制委員会にて、当社グループの内部統制とリスク管理の一体的な取り組みにおける方針・方向性・計画・対応状況などの審議を行っております。

また、当社に関わる不測事態の発生に対しては、グループで連携し、迅速かつ適切に対応策を講じるため、緊急時の組織体制を含めた危機管理規程およびマニュアルを整備し、損失ならびに損害を最小限に抑える体制を整えています。

#### 監査等委員会監査、内部監査の状況

当社は、監査等委員会設置会社制度を採用しています。3名の社外取締役を含む5名の監査等委員は、取締役会をはじめ重要な会議・委員会に出席し意見を述べるなど、業務執行の全般にわたって監督機能の充実に努めています。また、監査等委員会は、グループ各社の監査役と連携を図るとともに、経営監査部がグループ各社の内部監査を行うことで、グループ各社の業務運営に対する監査を定期的に行っています。また、監査等委員会室を設置し、監査等委員会の職務全般を補助しています。

### コーポレートガバナンス体制



※1 当社は、監査等委員会設置会社であり、指名委員会、報酬委員会は任意の委員会です

※2 環境委員会および品質管理・PL委員会・CS活動は、2019年6月1日より内部統制委員会傘下の委員会などとして体制を変更しています



## ■ コンプライアンスの推進 ■

コンプライアンスは、三協立山グループにとって経営の重要事項の一つであると捉え、推進専任部署を2004年7月に設置しました。当社のコンプライアンス推進担当役員を委員長とする「三協立山コンプライアンス委員会」を設け、コンプライアンス推進基本方針に基づき、活動を進めています。

### 【コンプライアンス推進 基本方針】

- ① 全役職員が当社グループの社会的な使命と責任を認識し、法令・企業倫理・社内規程を誠実に遵守します。
- ② コンプライアンスに最大の価値を置き、利益とコンプライアンスが相反する場合には、コンプライアンスを優先させます。
- ③ 外部から不正・不当な要求がなされても、断固として拒否します。
- ④ グループ内でコンプライアンスに関する問題が生じた場合には、直ちにこれを是正します。

## 今年度活動報告

### 各種研修・教育活動の実施

当社支店・営業所および営業系子会社の営業管理者に対し、コンプライアンス研修を実施しました。不祥事の防止と健全な職場をつくるために、本研修を通じて、管理者としての役割・姿勢を見直す機会としました。

また、新入社員研修、階層別研修、および新任支店長・工場長研修を実施し、社会人として求められる行動やコンプライアンスの本質などについて考え、習得する機会を設けています。

### コンプライアンス意識の啓発

職場内コンプライアンス活動推進のため、従業員向けコンプライアンス情報誌を隔月発行しています。コンプライアンスリーダーが、この情報誌の内容を職場の従業員に周知することで、職場内のコンプライアンス意識向上につなげています。

また、コンプライアンスセルフチェックを全従業員に対して年2回実施しています。セルフチェックの実施により、自分の行動を振り返る機会を提供しています。

### 内部通報制度の理解促進

当社グループでは、内部通報制度(通称:コンプライン)を設けています。内部通報窓口と外部通報窓口のほか、取締役および事業役員に係るコンプライアンス違反の通報先として、監査等委員会通報窓口を設置しています。また、内部通報制度の理解状況調査を毎年実施し、調査結果は啓発活動に反映させています。



営業管理者向けコンプライアンス研修



情報誌「コンプラ通信」



## ■情報セキュリティの確保■

三協立山グループでは、情報セキュリティの確保に関して、お客様の個人情報や取引情報の保護を最優先に取り組んでおり、従業員一人ひとりが情報セキュリティに対する適切な知識と行動を身に付けるよう実践しています。

### 情報セキュリティマネジメント体制

当社グループでは、情報システム担当役員を委員長とする「情報セキュリティ委員会」を設け、グループ全体の活動状況・課題を把握するとともに対応方針を決定しています。また、同委員会での決定事項は、実行・推進部門である「情報セキュリティ主管部門」のもと、各部門および各グループ会社に配置された約300名の「情報セキュリティ責任者」および「情報セキュリティ推進者」によって、全従業員に周知徹底を図っています。

### 情報セキュリティ確保への主な施策

#### 1. 教育・啓発

子会社を含めたグループ全体のガバナンス強化のため、情報セキュリティ基本方針および、規程・細則を整備しています。また従業員がよりセキュリティ意識を持って行動できるように、セキュリティ動画の視聴やセルフチェック、ウイルスメール対応訓練などを実施しています。

#### 2. 情報漏洩対策

社外に持ち出しするモバイルパソコンには、暗号化ソフトをインストールし、万が一盗難にあっても第三者に保存されているデータを盗み見されないよう対策をとっています。

また近年リスクが高まっている標的型攻撃メールの対策として、不審メールのブロックや未知の脅威を検知する仕組みを導入しています。

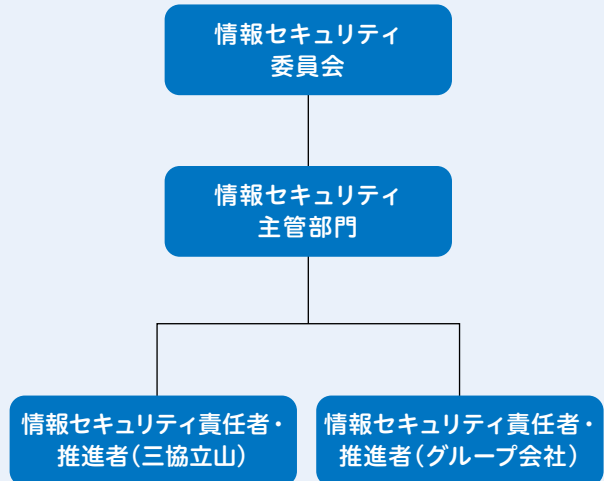
#### 3. アクセス権の適切な管理

社内からの情報流出リスクを低減するために、サーバ資源へアクセスする時に入力するユーザーIDや、アプリケーションを利用するために使うIDに関して、定期的な再検証(利用者と権限の確認)を行っています。

#### 4. 物理アクセス対策

これまで自社マシン室内に設置されていたホストコンピュータやサーバをデータセンターに移行することで、監視カメラや入退管理といった高レベルのセキュリティを確保しました。また建物の基礎免震構造や電源の二重化により、地震や停電などの災害時でもシステムを停止することなく運用できるようになりました。

#### ●情報セキュリティマネジメント体制(2019年6月1日)



#### VOICE )))

#### セキュリティ対策について

企業や組織は、情報漏洩などのさまざまなセキュリティ事故の脅威に直面しています。そして、それらの原因の約6割は人為的なミス、いわゆるヒューマンエラーによるものであると言われています。

つまり、社員のセキュリティに対する意識の改善により、セキュリティ事故の発生を大幅に減少させることができます。

当社では、社内のセキュリティルールの周知を目的として情報セキュリティセルフチェックを行ったり、年々巧妙化している標的型攻撃メールへの対策としてウイルスメール訓練などを行っています。

セキュリティ事故を防ぐために、不正なアクセスを検知・防衛する機器を導入するなどのハード面でのセキュリティ強化などももちろん大切ですが、従業員のセキュリティ教育を地道に、継続して行い、セキュリティに対する意識やスキルを従業員一人一人が少しずつ高めていく事で、三協立山グループ全体のセキュリティ強化につなげていきたいです。



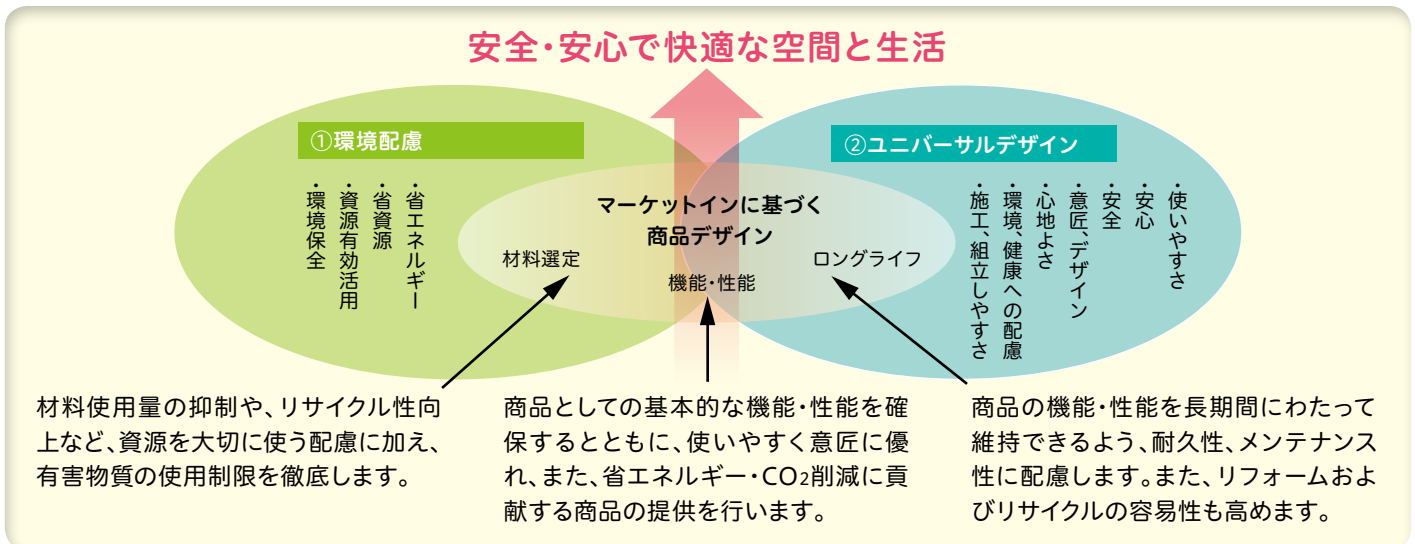
情報システム統括室  
システム企画部管理課  
大橋 恵利香

## ■商品開発の基本姿勢■

三協立山グループは、商品・サービスの購買者ニーズを優先し、マーケットインをベースとした全体最適システムから生活視点で商品開発を行い、お客様の期待にお応えします。

### 商品開発理念

安全・安心で快適な空間と生活に寄与するために、全ての新規開発商品において、①環境配慮と②ユニバーサルデザイン(以下UD)を基本に、「材料選定」、「機能・性能」、「ロングライフ」の3つの要素を使う人の立場に配慮して盛り込み、お客様へご提案しています。



### 環境配慮の商品づくりについて

#### 環境配慮設計指針による商品開発

当社では、「環境配慮設計指針」を基本として商品開発を行っています。この中では、「省エネルギー」「省資源」「資源有効活用」「環境保全」の4つのコンセプトに基づき、材料選定、生産、流通、施工、使用から解体・廃棄までのライフサイクルでの環境負荷低減に努めています。

#### 環境配慮商品

商品開発時には、環境配慮設計指針に基づいた「環境配慮設計チェックリスト」を用いて、全ての開発商品について、環境への影響を評価しています。

従来同等商品より環境への負荷が少なくなるよう目標を定め、総合点数が目標を上回った商品を『環境配慮商品』と定めています。(三協アルミの2018年度の環境配慮商品売上比率:82.3%)

#### ●4つのコンセプト

##### 省エネルギー

- ①断熱
- ②遮熱
- ③省電力
- ④自然エネルギー利用

##### 省資源

- ①リデュース
- ②長寿命
- ③メンテナンス性

##### 資源有効活用

- ①リユース
- ②リサイクル

##### 環境保全

- ①有害物質抑制
- ②温室効果ガス

また、商品カタログには、環境配慮商品であることを示すマークを付けています。

#### ●環境配慮商品マーク



### ユニバーサルデザインの取り組み

#### UDユーザー評価会

UDユーザー評価会とは、開発商品の試作確認時にユーザー視点での商品評価を行うものです。ユーザー側の声を商品開発へフィードバックすることで、書類審査や開発関係者による検討だけでは気が付かない問題点を掘り起こします。



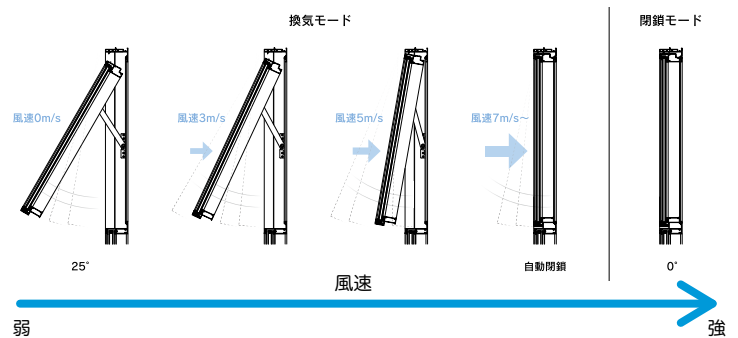
UDユーザー評価会

## ■ 環境・UDに配慮した商品開発(1) ■

### 「ARM-S U シリーズ [U+タイプ]」自然換気窓「風力すべり出し窓」

## 風の力を利用した換気を実現

「風力すべり出し窓」は、風の力で開放角度を制御し室内に取り込む風量を調整して快適な室内環境を保ちます。また、独自のロック機構により、日常的に使う換気窓と非常時の排煙窓をハンドル操作で切り替えることができるため、さまざまな用途で中高層建物に採用していただけます。



#### 風の力を利用した換気機能

受ける風の力によって障子の開放角度が変化します。風が弱い時は最大角度で開放し、室内に風を取り込みますが、風が強くなるに従って開放角度を絞り、室内に取り込む風を調整します。

#### 環境とUDへの配慮

- ① 自然の風を利用した換気を実現し、冷暖房の使用削減による省エネルギーに貢献
- ② 不意の強風が吹いても窓の開放角度が絞られ、爽やかな風を取り込むので、安心して快適な室内環境を提供
- ③ ワンアクションのハンドル操作で、閉鎖・換気・排煙の開閉モード切り替えが可能



排煙モード

閉鎖モード  
● 開放角度 0°

換気モード  
● 開放角度 25°~自動閉鎖

排煙モード  
● 開放角度 45°

商品の詳細はこちらから <http://www.arm-s.net/>

#### VOICE )))

ビル用高性能省エネサッシシステム「ARM-S」のUシリーズ[U+タイプ]に、風の力を利用した新しい機構を持つ自然換気窓「風力すべり出し窓」を追加しました。

スリムな外観が特徴の「ARM-S」のデザインを崩さないよう、窓のロック機構をフレーム内に隠しています。突風によって窓が勢よく閉まる可能性が想定されますので、衝撃力を繰り返しても耐えられるよう、機能性と意匠の両立を目指して開発しました。

建物に自然の風を取り入れると、エアコンを使わないので省エネになります。また、建物の中にいながら風の心地よさを感じることもできます。空調に頼りすぎず心地よい風を取り入れる建物が街に増えていくことで、人にも環境にも優しい街づくりにつながると思います。



三協アルミ社  
ビル商品部 ビル商品企画課  
武光 広志



## ■環境・UDに配慮した商品開発(2)■

### 高断熱玄関ドア「PRONOVA(プロノーバ)」

## 高い断熱性能を追求し、エコで心地よい暮らしをお届けする玄関ドア

近年、断熱玄関ドアをご採用いただくことの多い寒冷地域で通風・換気機能へのニーズが高まっています。また、一般地域においても、高断熱の玄関ドアが増えています。

「プロノーバ」は、採風ドアをはじめ、高級感を演出する鋳物格子など多彩なデザインをラインアップしており、お客様のさまざまなご要望にお応えします。



タッチ錠  
「eエントリー」  
ACタイプ(電気式)



採風ドア(デザイン:61)

高断熱玄関ドア  
**PRONOVA**  
プロノーバ



室内側の内開き窓の開閉によって通風・換気ができます。

#### 環境とUDへの配慮

- ① 快適で健康な暮らしを育む、優れた断熱性能
- ② 高断熱を追求しながら、快適生活に必要な防犯と採風機能を備えたドアをご用意
- ③ 便利で使いやすい、ワンタッチで施錠が可能なタッチ式電気錠「eエントリー」

商品の詳細はこちらから

<https://alumi.st-grp.co.jp/products/entrance/door/pronova/index.html>

#### VOICE )))



三協アルミ社  
住宅商品部 住宅商品企画課  
角谷 千映

「プロノーバ」は、高断熱仕様の玄関ドアです。玄関を含めた家全体の断熱性能を高めると、省エネになるだけでなく、暖冷房した部屋と廊下などの温度差が抑えられるため、四季を通して快適に過ごすことができます。

「プロノーバ」の採風ドアは、高い断熱性能と採風機能を両立させた当社独自の商品です。防犯とプライバシーに配慮しながら爽やかな風を採り入れ、エコで心地よい暮らしをお届けします。

また、タッチ式電気錠「eエントリー」や、小さなお子様でも開け閉めしやすい「ロングバーハンドル」など、人に優しい機能もたくさん備えており、便利で快適な暮らしづくりにも配慮しています。

ロートアイアン調の鋳物格子のドアや、リアリティーを追求した木目色はエントランスをエレガントで華やかにします。

「プロノーバ」で、ときには自然の柔らかい風を肌に受けながら、自然の光や観葉植物で玄関を演出すれば、訪れる人を暖かく迎え入れる空間になります。



## ■ 環境・UDに配慮した商品開発(3) ■

### 照明「ワンダーライト(DC12V・24V)」

## 反射光を利用した間接照明で、ファサード空間のナイトシーンを魅力的に演出

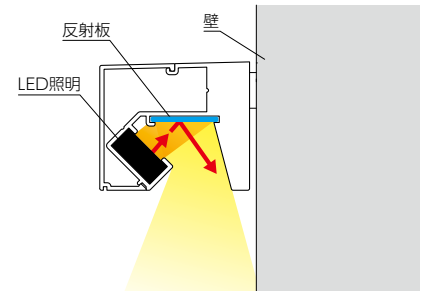
2018年に発売した「ワンダーライト」シリーズの第2弾として、反射光を利用した間接照明により門扉や門扉の表面をやわらかな光でライトアップする「ウォールライト」を発売し、ローボルト照明\*のバリエーションを拡充しました。

※ ローボルト照明：日本の家庭で一般的に使用されているAC100V(ボルト)の電圧をトランスで変換し、低電圧のDC12V・24Vで点灯するライト

\* ローボルトは榊タカショーの商標



ウォールライトS型は、反射板にLED照明の光を反射させて、壁面を照らします。



#### 環境とUDへの配慮

- ① 低電圧のため感電事故の危険性が少ない。施工時だけでなく、子供やペットのいる家庭でも安心
- ② 配線工事に、電気工事士の資格が不要。施工が簡単で工期短縮に
- ③ 省電力、長寿命のLED照明

商品の詳細はこちらから

[https://alumi.st-grp.co.jp/products/gate/light\\_dc/wonderlight/index.html](https://alumi.st-grp.co.jp/products/gate/light_dc/wonderlight/index.html)

#### VOICE)))

「ワンダーライト」は、感電のおそれ少なく、電気工事士の資格が不要で施工が簡単な屋外照明です。

今回は、反射光方式を採用した「ウォールライト」をラインナップ追加しました。明るさを確保しつつ、まぶしくない形状を追求するとともに、機器を小さくして昼間の存在感をできるだけ無くしています。光源が露出しないことで直接光が目に入らないため、やわらかな光でナイトシーンを演出することができます。

家の外観にこだわる人は多いのですが、街並みの雰囲気を決めるのは、エクステリアのデザインであると思います。お庭の照明は、防犯面だけでなく、歩く人の足元を照らし、安全と安心をお届けします。家にこもらず外に出て歩きたくなるような、きれいで人に優しい街並みづくりに貢献できればと思います。



三協アルミ社  
エクステリア商品部 エクステリア商品開発一課  
島田 珠代

## ■ 環境・UDに配慮した商品開発(4) ■

### 「根域環境制御装置 N.RECS」※1

※1 日本大学生物資源科学部、日立トリプルウィン(株)等との共同開発  
・特願2016-111867(栽培容器保持トレイ及び栽培システム)

## 植物の根域の温度制御で省エネルギー化や猛暑対応を目指す

温室による植物栽培の場合、温室全体を暖房あるいは冷房して栽培温度を調節することが一般的です。しかし、温室全体を冷暖房すると、エネルギーコストの負担が大きくなってしまいます。

根域環境制御装置は、根の部分のみを温める(冷やす)ことで、冷暖房の省エネルギー化や夏季の高温による生育障害の低減などを実現するものです。

当社は、「根域環境制御装置 N.RECS」の開発プロジェクトに参加し、装置のアルミ部材の開発・最適化を担当しています。



根域環境制御装置による栽培状況



アルミ部材で温水(冷水)の熱を均一に伝える

#### 根域温度制御のメリット

- ① 根域冷却による、猛暑に対する高温障害の低減
- ② 根域加温による、冬季の暖房コストの削減、省エネルギー化
- ③ 根域温度制御による、新しい生育・開花調節技術の開発

N.RECSの開発に当たっては、耐久性と排水性が高く、かつ伝熱性が高い素材の採用が不可欠でした。様々な試行錯誤を重ね、三協マテリアル社様の経験と実績に基づいたご提案により本装置のコアとなる部品を作成することができました。本装置は実用規模で根域を加熱・冷却できる世界で初めての装置です。今後はさらに産学連携を強化し、N.RECSの高度利用技術を開発して世界のスマート農業の発展に貢献します。

この装置の開発は農水省委託プロジェクト研究「国産花きの国際競争力強化のための技術開発」によって支援を受けました。

日本大学生物資源科学部  
生命農学科 花の科学研究室  
教授 窪田 聡様



#### VOICE )))



三協マテリアル社  
関東支店 営業二課  
山崎 進太郎

当社は、産学連携による「根域環境制御装置 N.RECS」の開発プロジェクトに参加し、装置のアルミ部材開発を担当しています。

建材を主力とする当社にとって農業分野は異業種と思われるかもしれませんが、当社は植物工場プラントシステムの物件販売や、植物工場ラック「アルファーム」※2の販売を行っていますので、このプロジェクトでも当社の強みが発揮できていると考えています。

私たちのプロジェクトが目指していることは、この装置を使ってAI(人工知能)で生育制御を行うことです。付加価値の高い商品を栽培したり、栽培効率を上げ省力化を図ることを想定しており、将来の人手不足に対応し、農家の手助けにつなげたいと思います。当社の担当は装置の一部ではありますが、この装置の普及によって日本の農業の課題解決に役立って欲しいと思います。



※2 植物工場ラック「アルファーム」

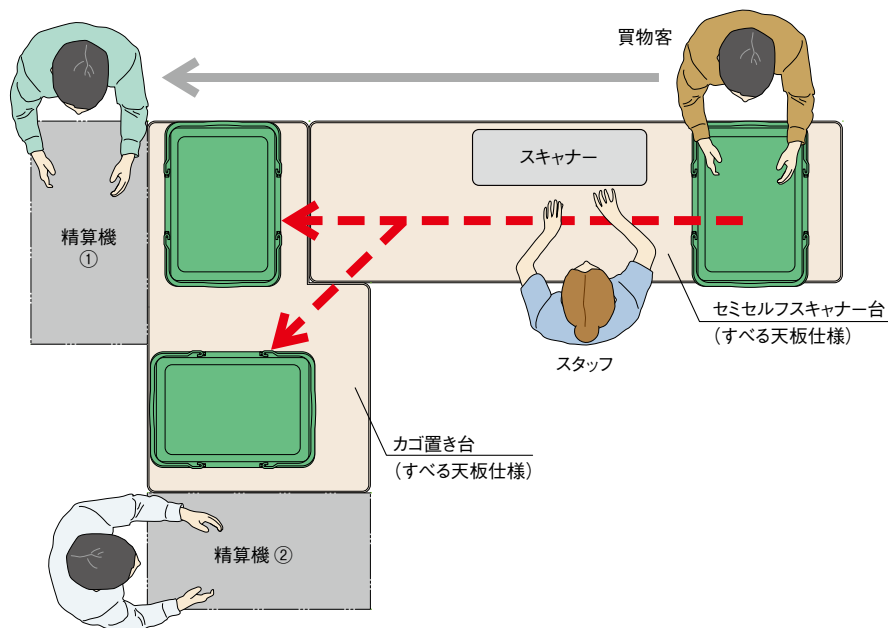


## ■環境・UDに配慮した商品開発(5)■

「すべる天板」(スキャナー台を含む「レジ周りの省力化」)

# レジ作業負担軽減のため、カゴをすべらせて運ぶ方法を提案

お店のレジ周りの天板をすべりやすい材料とすることで、商品カゴを“持ち上げて”運ぶレイアウトから、“すべらせて”運ぶレイアウトに変更し、お店のスタッフの負担軽減と作業効率アップにつなげます。



商品が入ったカゴを、すべらせて精算機に移動

### 環境とUDへの配慮

- ①商品が入った重いカゴを、すべらせて精算機に移動させることで、お店のスタッフの負担軽減
- ②耐久性が高く、つなぎ目の無い一枚天板のため、ゴミがたまることなく、衛生的

### VOICE )))

働き手不足の時代を迎え、最近のスーパーなどでは、買物客自身が精算機にて支払いを行うセルフ・セミセルフ精算方式が増えています。お店にとってはレジ対応が早く効率的になりますし、買物客にとってもレジ待ち時間の短縮につながります。しかし、お店のスタッフは処理スピードが上がった分、商品カゴをレジ台から精算機に運ぶ回数が増え、負担となっています。

当社は、お店のスタッフの要望を叶えるために、カゴを“持ち上げて”運ぶ方法から、“すべらせて”運ぶ方法への変更を提案しています。

今でも、すべりやすいプレート为天板に貼り合わせてリフォームする商品がありますが、プレートの継目にゴミがたまりやすい欠点があり、衛生面で気になるという声もありました。この欠点を克服するため、天板一面をすべりやすい板にすることで、清潔感がありすっきりとした商品となっています。

商品化のポイントは、天板に貼る「すべる材料」の選定でした。他社にはない商品のため、汚れや変色、キズなど使用時の品質確保や、天板への接着性など製造時の課題を解決し、実現までに2年ほどかかりました。

私たちは、お客様のお困り事を解決し、笑顔のあるお店を実現するための商品を提供しています。“ものづくり”を通じて、お店の経営者、スタッフ、買物客全ての人の“ゆめづくり”に貢献できるよう、これからも努力していきます。



タテヤマアドバンス社  
商業施設開発部 商業施設開発一課  
中川 実

## ■ 社会から評価を受けた商品 ■

### 2018年度グッドデザイン賞

#### ● 「NT HANDLES」 (室内用ハンドル)

#### 「NT HANDLES」(室内用ハンドル)

「NT HANDLES」は室内用建具のハンドルや引手などのインテリアパーツです。<sup>※1</sup> ユーザーが長く使っても飽きず、愛着を持てるフォルムで、ストレスのない高い操作性と人の手が自然と覚えてくれる質感を両立させました。毎日無意識に触れるものであるからこそ、人の手に優しい触り心地まで考えたカタチとしました。また、レバーハンドル・引手・クローゼットハンドルがトータルにデザインされたパーツは、1棟、1部屋でのトータルコーディネートが可能となります。

#### ■ グッドデザイン賞評価ポイント

レバーハンドル、引手、クローゼットハンドルという建築空間に標準的に必要な3つの取手に、曲線と直線形状が一貫性を持って取り入れられ、視覚的にも美しくまとめられている。その意匠性はどれも機能向上が前提で用いられており、握りやすさ、引く方向への誘導、力の加わり方など上手く配慮されている点も評価したい。

GOOD DESIGN AWARD  
2018年度受賞



「NT HANDLES」(室内用ハンドル)



「LEVER HANDLE」  
(ドアレバーハンドル)



「FLUSH PULL HANDLE」  
(引戸引手)



「PULL HANDLE」  
(クローゼットハンドル)

### 第12回キッズデザイン賞

#### ● ガーデンフロア「ラステラ」

#### ● 「NT HANDLES」

#### ガーデンフロア「ラステラ」

**受賞部門：子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門**

「ラステラ」は、タイルテラスのようなスッキリした、きれいな空間を演出する人工木フロアです。子どもから高齢者まで、安心して暮らせる住まいづくりに貢献するため、リビング床とフラットな納まりを可能とし、お子様の昇降にも配慮した低フロア、ステップを設定しました。やさしい手触りの床板でケガにも配慮しました。

#### 「NT HANDLES」

**受賞部門：子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門**

「NT HANDLES」は室内用建具のインテリアパーツです。<sup>※1</sup> 長く使っても飽きず、いつまでも愛着を持てるフォルムで、ストレスのない高い操作性と人の手が自然と覚えてくれる質感を両立させました。毎日使うものであるからこそ、人の手に優しい触り心地まで考えたカタチとしました。

※1 「NT HANDLES」は、当社と建築家・デザイナーの寺田尚樹氏とのコラボレーション(「SACLAB<sup>※2</sup>」)により誕生し、インテリア建材「LIVERNO(リヴェルノ)」に採用しています。

※2 当社は2013年春より、日本の建築界を牽引する建築家やデザイナーなどと共に、新しい住空間を考えるラボラトリー「SACLAB(サクラボ)」をスタートさせています。第1弾のテーマ「外部と敷地境界」に続く第2弾のテーマとして「インテリア空間における境界」に取り組み、建築家・デザイナーの寺田尚樹氏とのコラボレーションにより、独自性のある新ハンドル「NT HANDLES シリーズ」が誕生しました。



KIDS  
DESIGN  
AWARD  
2018



ガーデンフロア「ラステラ」



「NT HANDLES」



## ■ お客様の喜びと満足のために(1) ■

### 製品安全と品質向上に関する基本方針

三協立山グループは、「お得意先・地域社会・社員の協業のもと、新しい価値を創造し、お客様への喜びと満足の提供を通じて、豊かな暮らしの実現に貢献します」を経営理念として掲げ、商品・サービスをはじめとするさまざまな企業活動を通じて、人々が暮らす快適な空間と満足される生活づくりに貢献していくことが使命であると考えています。

当社グループでは、これまで開発・製造・販売する製品の安全・安心への取り組みを進めてきました。より一層、お客様に安心してお使いいただく製品をご提供するために、自主行動基準として「製品安全宣言」「品質向上宣言」「製品安全と品質向上に関する行動基準」を定め、グループ各社のすべての活動において製品の安全性確保を最優先に、企業活動を行ってまいります。

#### 製品安全宣言

私たちは、お客様に安心してお使いいただける安全な製品を提供するため、製品の安全性確保を徹底して追求します。

#### 品質向上宣言

私たちは、さらに上の品質を追求し、お客様に「選ばれ」「喜ばれ」「必要とされる」企業を目指します。

#### 製品安全と品質向上に関する行動基準

##### 1. 法令遵守

- 製品の安全性確保及びお客様の安全確保に関する法令や安全に関わる基準、品質に関する規制要求事項を遵守します。
- 従業員に対して、関係法規、社内規程、その他必要事項に関する教育を実施し、周知徹底を図ります。
- 法令や安全に関わる基準、品質に関し定期的に監査し、維持管理します。

##### 2. 製品安全性の確保

- 製品安全を確保する体制の整備と継続的な改善活動により「お客様」と「製品安全の確保」を優先する企業風土を醸成します。
- リスクアセスメントを通じてお客様目線の安全設計の実施に取り組むとともに、適切な品質管理を実施します。
- 製品を安全に正しくご使用いただくため、取扱説明書、製品本体等に誤使用や不注意による事故防止に役立つ注意喚起や警告表示及びお手入れ方法等の情報を正確で分かり易く表示します。
- 流通段階で製品の組立、施工を行う関係事業者に必要な情報を提供し、安全性確保の啓発・指導を行います。

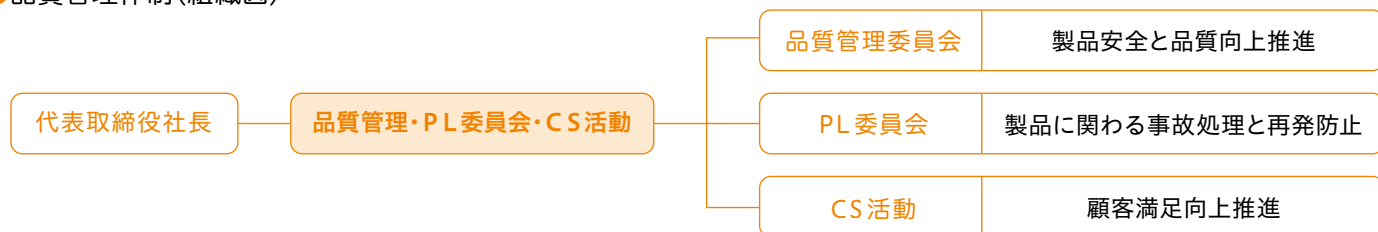
##### 3. 品質向上

- 製品の企画・開発・設計から生産・出荷・組立・施工まで各段階におけるリスク分析とその低減に努めます。
- 製品品質とその管理状況を定期的に確認し、品質管理体制の改善活動を継続します。

##### 4. 事故発生時の対応

- 製品事故が発生した場合、速やかに情報を収集して処理対応を行うとともに、法令に基づき所轄官庁へ報告します。
- 事故原因を速やかに究明し、安全上の問題があると判明したときは、適切な方法でお客様に告知します。
- 危害の発生、拡大を防止するため、製品回収、修理等必要な措置の実施と、再発防止を徹底します。

### ● 品質管理体制(組織図)



※ PL(Product Liability) = 製造物責任  
 ※ CS(Customer Satisfaction) = 顧客満足

### ● 活動内容

- 品質管理委員会の活動
- 三協立山グループ品質連絡会の活動
- 商品開発時のリスクアセスメントの導入によるリスク検証
- 生産時の4M<sup>※1</sup>変化点管理の導入とPDCAサイクル<sup>※2</sup>の活用

※1 4M: ●人(Man) ●機械(Machine) ●材料(Material) ●方法(Method) 工程内で大量の不具合が発生した場合、このいずれかが変化している事が多い

※2 PDCAサイクル: 「計画をたて(Plan)、実行し(Do)、その評価(Check)にもとづいて改善(Action)を行う、という工程を継続的に繰り返す」仕組み



## ■ お客様の喜びと満足のために(3) ■

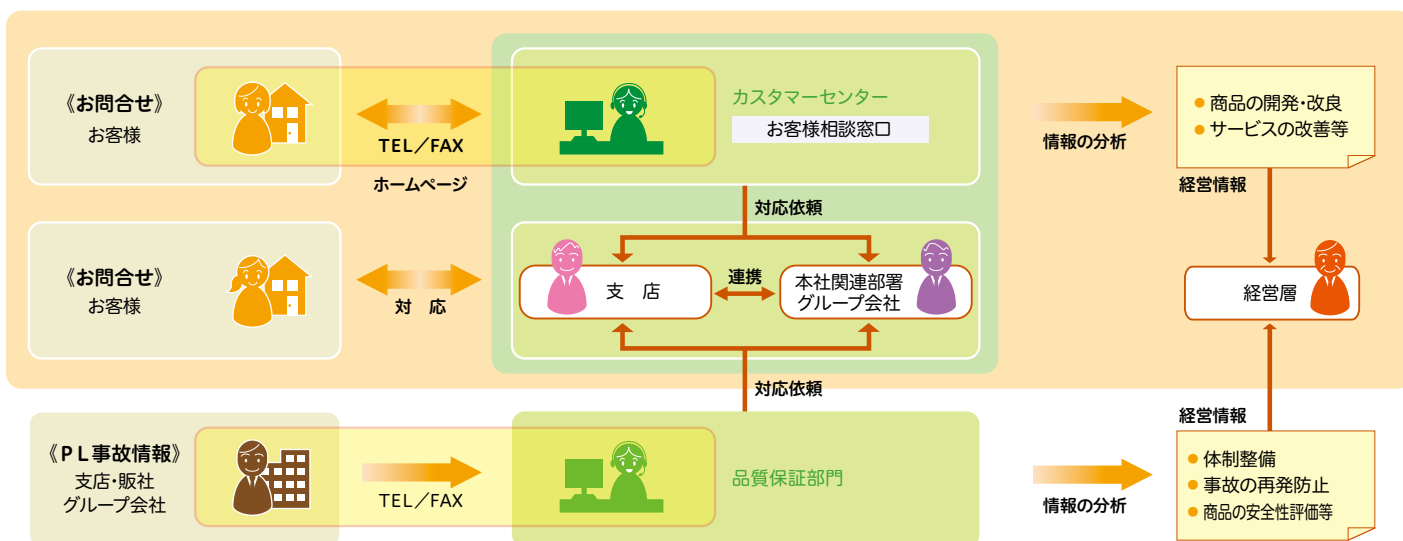
### お客様の声(VOC※)を生かすために

当社は、お客様からの相談窓口としてカスタマーセンターを設置し、電話、FAX、ホームページなどによりお問合せをいただけるようにしています。相談窓口では、商品のご購入、使用方法に関するお問い合わせやアフターメンテナンスのお問合せ、その他お困りごとなど、丁寧に迅速な対応に努めています。

また、「お客様満足第一」で一つひとつのお問合せを真摯に受け止め、日々お客様から寄せられる「お客様の声(VOC)」を系統立てて整理・分類し、さまざまな角度から分析を行い、課題を抽出しています。これらの課題を経営情報として経営トップや関係部署と共有し、商品の開発・改良およびサービスの改善、ホームページやカタログなどの情報提供ツールなどの改善に役立てています。これらの活動を通じてお客様との更なる信頼関係を深めていきたいと考えています。

※VOC(Voice of Customer) = お客様の声

### ● お客様情報の取り組み



### 安心してご使用していただくために

当社は、製品の安全性確保とお客様の安全確保に関する法令や品質に関する基準を遵守しています。

開発段階では、リスクレベルの「見える化」による安全性の評価(R-Map※を用いたリスク評価)を行い、使う人の立場に立って、より使いやすい、安全な商品づくりに取り組んでいます。また、取扱説明書や注意ラベルに限らず、カタログの記載内容については、景品表示法、消費者基本法などの各種法規に準拠しているかどうか、さらに、所属工業会のガイドラインに沿っているかどうかについて事前にチェックして、お客様に必要な情報を明確でわかりやすく表示するよう取り組んでいます。

当社製品に関わる事故が発生した場合、すみやかに必要な関連情報を収集して、お客様の視点に立った迅速で適切な事故処理を行うとともに、重大な製品事故については、消費生活用製品安全法などの法令に基づいて、所轄官庁へ報告を行います。

また、事故の原因究明と再発防止を徹底し、製品の安全確保に努めていきます。

※R-Map: 危害の程度と発生頻度から、リスクの大きさを評価する手法の一つ。



## ■ 株主の皆様とともに ■

三協立山は、グループ全体の経営基盤の強化と収益力向上によって、継続的な企業価値の向上を図り、株主の皆様のご期待に応えていきたいと考えています。

### IR※活動

IR活動は、広報・IR部が担当しています。株主、投資家をはじめとするあらゆるステークホルダーの皆様へ、当社グループの企業活動に対する理解を深めていただくとともに、適正に評価をしていただくため、企業情報を適時・適切に開示しています。

当社ホームページには、決算短信、決算説明資料、有価証券報告書(四半期報告書)などの決算開示資料に加え、半期ごとに株主通信などを掲載し、投資家の皆様がいつでも容易に閲覧できるようにしています。

機関投資家様に向けては、期末決算後に決算説明会を開催しています。また機関投資家様との個別ミーティングを、四半期毎の決算時やご要望に応じて適宜開催しています。2018年度は国内外の機関投資家様と約60回の個別ミーティングを実施したほか、ご要望に応じて工場視察の受入なども適宜行っています。

IR活動を通じてステークホルダーの皆様からいただいたご意見や助言などは、適宜、経営幹部にフィードバックし、今後の経営に活かすように努めています。

※IR(Investor Relations、インベスター・リレーションズ)：  
企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な情報を適時、公平、継続して提供する活動全般

### 情報開示の考え方

当社は金融商品取引法などの諸法令ならびに東京証券取引所の定める有価証券上場規程(以下「上場規程」という)に準拠した情報開示に努めるほか、当社をより理解していただくために有効と思われる情報についても、迅速に開示します。

なお、上場規程に該当する情報は、同規程に従い、東京証券取引所の提供するTDnet(適時開示情報伝達システム)を通じて開示します。投資判断に影響を及ぼすと思われる場合は、その重要度および緊急性に応じて、適宜、適切な方法ですみやかに開示します。



機関投資家様向け決算説明会

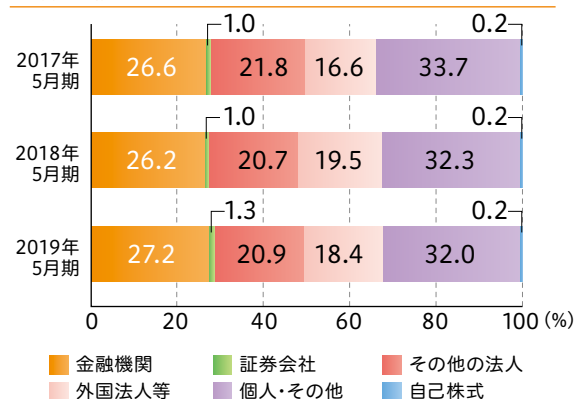
#### ● 株主構成 (2019年5月31日現在)

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数	31,554,629株
株主数	18,986名

#### ● 所有者別株式分布状況 (2019年5月期末)

区分	株式数	比率
政府・地方公共団体	0	0.0
金融機関	8,585,268	27.2
証券会社	413,078	1.3
その他の法人	6,592,022	20.9
外国法人等	5,802,126	18.4
個人・その他	10,084,148	32.0
自己株式	77,987	0.2
合計	31,554,629	100.0

#### ● 株主構成の推移



## ■ 地域社会とともに ■

三協立山グループは、地域社会の一員として、社会貢献活動やコミュニケーション活動など、地域との共生に向けた活動に積極的に取り組んでいます。

### 地域社会の一員として

#### 工場見学

当社は、2014年4月から、富山県射水市内にある一部の工場で、一般の工場見学の受け入れを開始し、産業観光を本格化させてきました。これまでに、5,000人を超える方々に見学していただきました。

当社の工場見学は、作業ラインの間近を通るため、ダイナミックな迫力を感じられ、熱やにおいなども肌で体感できる場所が特徴です。

今後も引き続き積極的に見学者を受け入れ、地域の産業観光振興に貢献していきます。



円柱状のアルミビレットの説明

#### 全社一斉清掃活動

当社グループの社会貢献活動の一環として、毎年『ごみゼロの日(5月30日)』にあわせて、全社一斉で事業所周辺の清掃活動を実施しています。

2018年度は、全国で2,608名のボランティア参加者がありました。今後も、事業所周辺の清掃活動を行い、地域の環境美化および従業員一人ひとりの環境保全意識の醸成を図ります。



全社一斉に実施の清掃活動

#### 「富山マラソン」ランナーへ給水ボランティア

2018年10月、「富山マラソン2018」は県民参加型のフルマラソン大会として開催されました。

当社は社会貢献活動の一環として、従業員34名がランナーへの給水ボランティアに参加し、給水のサポートとともに大きな声援を送りました。

また、当社従業員もランナーとして多数参加し、沿道からの温かい声援を受けました。



ランナーへ給水サポート

#### 野球BCリーグ戦「震災遺児育英支援冠試合」

2018年7月、当社グループがオフィシャルスポンサーとして応援している富山GRNサンダーバーズのBCリーグ戦を、「震災遺児育英支援冠試合」として開催しました。

当日の来場者数にあわせ、当社グループより来場者×100円を「あしなが育英会」へ寄付しました。



野球BCリーグ戦 冠試合開催

#### 「平成30年7月豪雨」災害の義捐金を贈呈

西日本を中心として全国的に発生した記録的豪雨(平成30年7月豪雨)による被災者救済および被災地復旧のため、三協立山グループおよび関連会社・関係先から集まった義捐金500万円を、日本赤十字社に贈呈しました。

2018年8月、日本赤十字社富山支部を訪問し、目録を手渡しました。



日本赤十字社富山支部に目録贈呈

## ■ 従業員とともに(1) ■

三協立山は、お客様へ喜びと満足を提供するために、新しい価値を創造できる人材の育成と、安全で健全な働きやすい職場づくりを目指しています。

### 働き方改革の推進

三協立山グループの持続的な成長を支えるために、優秀な人材の確保・育成、高齢者、女性、障がい者など多様な人材の雇用拡大・活躍を進めるとともに、仕事と生活の両立を目指して、長時間労働の削減、生産性の向上に取り組んでいます。

働き方改革関連法の施行内容と当社の取り組み方の周知を目的に、管理職を中心に労務管理研修を行いました。適正な労働時間管理、さらなる有休取得の促進に向け、管理職一人ひとりが法令を遵守し、働きやすい職場環境づくりに取り組む決意を新たにしました。

### ワーク・ライフ・バランスの推進

#### ノー残業強化デイ職場パトロールの実施

従業員の心身の健康を保持するため、毎週水曜日と金曜日を全社員残業ゼロの日と決め、職場パトロールを実施しています。管理職者が18時～18時半に各職場を巡回し、残業者がいれば帰宅を促しています。

#### 勤務時間選択制度の実施

勤務時間の合理的活用による長時間労働の削減や、仕事と生活の両立を推進するために、勤務時間を3パターンの中から選択可能としています。現在 560名が利用しています。

#### 有休の計画取得

四半期休暇やフレックス休暇などの有休を年度初めに申請し、一覧にして職場に貼り出すなど、各自が計画的に取得できるような職場全体で取り組んでいます。

### ダイバーシティの推進

ダイバーシティ推進の専任部署(多様性推進課)が中心となり、多様な人材が活躍できる風土作りに向けて、さまざまな取り組みを行っています。

#### 女性従業員の活躍推進

次のリーダーを目指す女性の育成を目的として、異業種との交流を通して切磋琢磨し成長するために、女性従業員の外部研修への派遣を行っています。

#### 障がい者雇用と活用

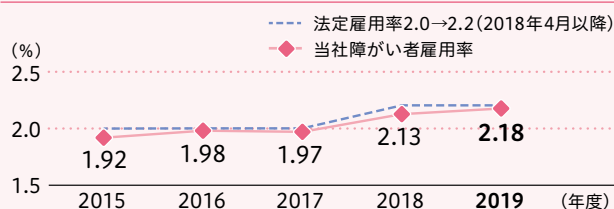
障がい者雇用については、企業の社会的責任として、法定雇用率(2.2%)を遵守すべく、さらなる雇用拡大と活用を進めています。

#### 高齢者の就業促進

定年時継続雇用率は約 79%、1年ごとの継続雇用更新率は 85%と多くの高齢者が活躍しています。

また、65歳を超えた従業員の雇用にも取り組んでいます。

#### ●障がい者雇用率



入社式

### 採用

#### 新入社員の採用

企業の安定的な成長・発展に向け、積極的に新入社員の採用を行っています。

『広い視野を持ち、好奇心とチャレンジ精神、行動力を備え、激動する時代にも柔軟に対応できる人材』の採用を行っています。

#### 通年採用

即戦力となる実務経験者を年間を通して採用しています。仕事と一緒にライフスタイルを考えるUターン、Iターン、Jターンを希望する方にも、全国に拠点を持つ当社では柔軟に対応しています。



## ■ 従業員とともに(2) ■

### 従業員教育

新入社員の早期戦力化、職場定着を目的に、チューター研修を初め、入社から3年間にわたり、段階的にフォローアップする研修を行っています。また、階層別に必要能力の組み込みを図るべく、各種研修を企画・実施し、事業環境を取り巻くさまざまな課題を的確に解決できる人材の育成に注力しています。

あわせて、次代のビジネスリーダーの早期創出に取り組んでいます。

### 自己啓発支援

通信教育講座の受講奨励や社内e-ラーニングなどの自学手段の提供、公的免許・資格取得に対する報奨金支給など、従業員の自己啓発やキャリア形成をサポートしています。

### 従業員満足度調査

従業員のモチベーションを、会社の生産性や業績の向上につなげることを目的に、毎年「従業員満足度調査」を実施しています。調査結果は、人事・労務・教育などに関する全社的施策の判断材料にするとともに、社内のポータルサイトなどで公開し、各職場の環境改善に役立てています。

## 労働安全衛生について

### 基本理念

従業員の安全と健康は、企業の存立の基盤をなすものであり、安全衛生の確保は、企業の社会的責任です。三協立山グループでは、人間尊重を基本理念とし、「安全第一」と「健康保持増進」を基本に全員参加で安全衛生活動を展開しています。

### 健康活動

2018年度は、「とやま健康企業宣言」を行い、健康経営に取り組むことを宣言し、Step1認定を取得しました。現在はStep2認証取得にむけて活動を展開しています。

従業員の健康管理としては、健康診断結果をもとに再受診の勧奨や保健指導などのフォロー、BMI値が一定以上の方が体重5%低減に取り組む「チャレンジ5%」、「血圧測定キャンペーン」を展開し、従業員個人への意識改善を行っています。

また、長時間労働による健康障害の防止を目的に、長時間労働者の産業医による面接指導の実施や、時間外労働の削減を目的とした業務内容の再配分などに努めています。

一方で、メンタルヘルス不調者が増加の傾向にあり、保健スタッフに相談できる体制や、社外の24時間対応カウンセリングサービスを整備しています。さらに2016年度以降ストレスチェックを実施し、労働者自身のストレスへの気づきを促したり、職場環境改善につなげるによりメンタルヘルス不調者発生の未然防止に努めています。



新入社員研修

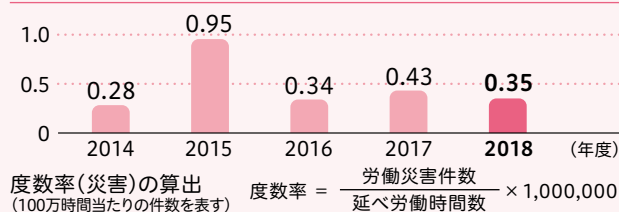
### 遺児育英年金制度

遺児育英年金制度は従業員が在職中に死亡（または、高度の障がいとなり）退職した場合に、遺児（子供）に対して奨学資金を援助する制度です。この制度は従業員が安心して働くため労働組合と共同で行っている福利厚生施策で、子供が18歳（高校卒業）になるまで援助するものです。

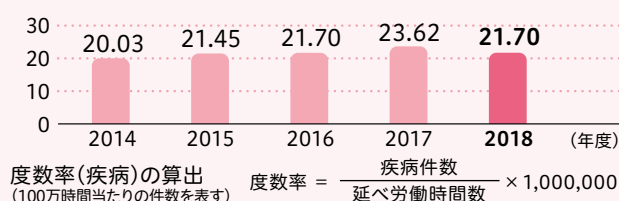
### 安全活動

「安全は全てに優先する」を基本に、職場の危険源低減活動として「リスクアセスメント」、「5S活動」、「ヒヤリハット活動」や「労使安全パトロール」などを展開し、危険源の排除に取り組んでいます。また、安全に強い人づくり推進活動として「危険予知訓練」、「各種安全衛生教育」などを実施し、安全意識の向上と人材育成を図っています。さらに危険体感道場を設立し、実体験による「危険感受性向上訓練」と、作業行動の要所での「指差し呼称」による安全確認の徹底運動を展開しています。

#### ● 休業度数率(災害)



#### ● 休業度数率(疾病)



## ■ 環境基本理念 ■

三協立山グループは、経営理念・行動指針に基づき、環境基本理念、環境方針などを展開し、環境問題については最重要課題として位置付け取り組んでいます。

環境スローガン

創ろう美しい地球を

環境基本理念

三協立山グループは、地球環境問題を最重要課題として認識し、全ての事業活動を通じ地域や地球の環境保全に取り組み、人と自然にやさしい豊かな社会づくりに貢献いたします。

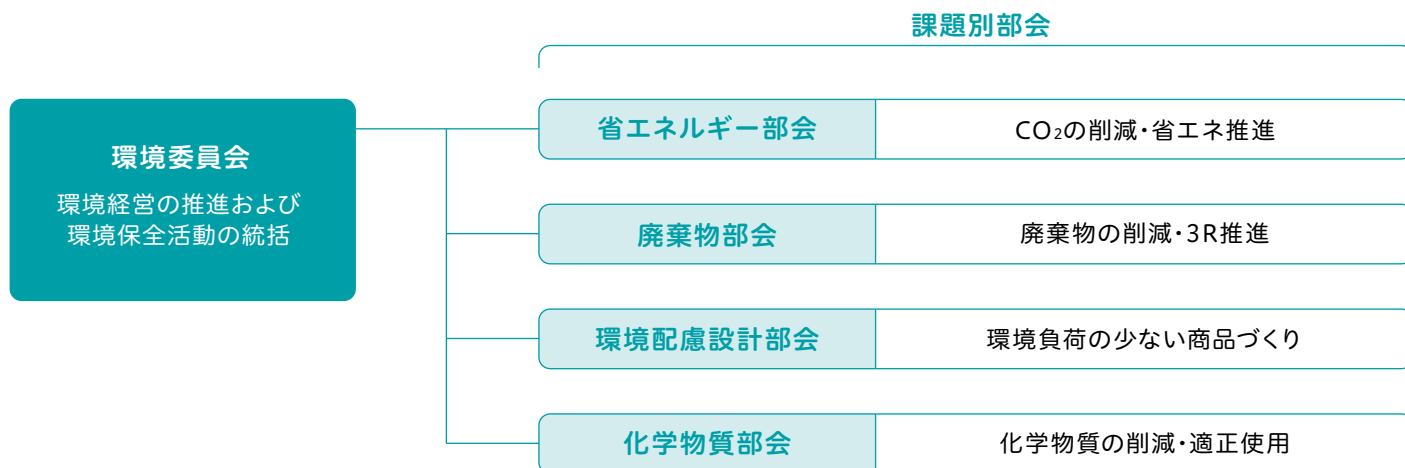
環境方針

- ① 事業活動における環境負荷低減
- ② 環境配慮商品の充実・推進
- ③ 環境経営および環境リスクへの対応
- ④ 環境コミュニケーションの促進

## 環境推進体制

三協立山グループの環境経営を推進し、環境保全活動を統括する組織として、「環境委員会」を設置しています。当委員会では、環境経営に関する方針・方向性の策定や環境保全に関する重要事項の審議等を行います。

また、特に重要な環境政策については、課題別部会を設けて具体的に展開しています。



## ■ 主要指標一覧 ■

### [2018年度] 主要な環境パフォーマンス指標などの推移

項目	報告対象期間	2016年度	2017年度	2018年度	集計範囲	本報告の掲載ページ
総エネルギー投入量	(千GJ)	4,355	4,343	4,152	三協立山	P30
主要原料投入量	(千トン)	160	163	160	三協立山	P28
水資源投入量	(千トン)	10,182	10,363	9,823	三協立山	P28
温室効果ガス排出量	(千トン-CO <sub>2</sub> )	280	279	268	三協立山	P30
産業廃棄物排出量	(千トン)	26.3	24.9	23.0	三協立山	P31
PRTR対象物質取扱量	(トン)	534	477	462	三協立山、関連会社	P32
化学物質トルエンの排出量	(トン)	47	37	39	三協立山、関連会社	P32
化学物質キシレンの排出量	(トン)	63	57	58	三協立山、関連会社	P32
総資産	(百万円)	254,139	271,017	262,426	三協立山	P41
売上高	(百万円)	320,817	328,409	337,789	三協立山	P41

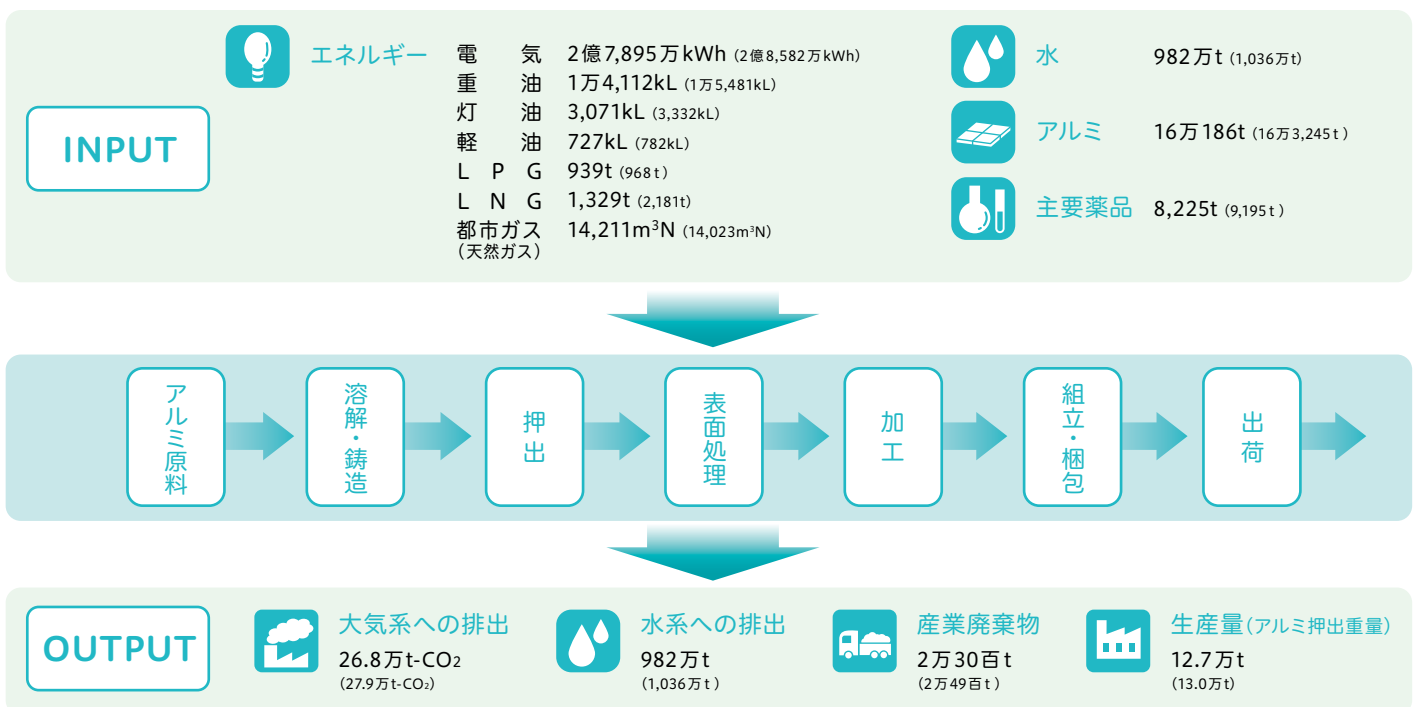
※温室効果ガス排出量：各電力会社の2013年度実排出係数にて算出

※主要原料投入量、水資源投入量、PRTR対象物質取扱量、化学物質トルエンの排出量、化学物質キシレンの排出量の集計期間は4月1日～翌年3月31日

## 環境とのかかわり

当社グループでは、主にリサイクルが容易なアルミニウムを材料とし、エネルギーや水、化学物質を使用して商品づくりを行っています。その過程として、資源の消費、廃棄物やCO<sub>2</sub>の発生という形で、環境に負荷を与えています。

このような負荷を低減するためのさまざまな活動を通じて、地域や地球の環境保全に取り組んでいます。



※( )内は2017年度実績  
 ※集計範囲・・・三協立山(株)



## ■ 環境行動目標と実績 ■

中期および2018年度の環境行動目標と実績は、下表のとおりです。

### 中期および2018年度の目標と2018年度の実績

環境方針	取り組み項目	中期環境行動目標 (2018年度～2020年度)	2018年度 目標	2018年度 実績	自己評価	掲載ページ
事業活動における環境負荷低減	地球温暖化対策 (省エネルギー対策)	○エネルギー使用量原単位を各年度、前年度比で1%以上削減	○1%以上削減	○2.3%削減		P30
		○CO <sub>2</sub> 排出量原単位を各年度、前年度比で1%以上削減	○1%以上削減	○1.9%削減		P30
	廃棄物対策	○産業廃棄物排出量原単位を各年度、前年度比で1%以上削減	○1%以上削減	○4.5%削減		P31
		○産業廃棄物のリサイクル率を各年度98%以上継続	○98%以上	○98.1%		P31
	化学物質対策	○PRTR対象物質の中でトルエンなどVOC5物質の排出量原単位を各年度、前年度比で1%以上削減	○1%以上削減	○1.7%増加		P32
環境配慮商品の充実・推進	グリーン調達の推進	○調達先へ「環境経営の評価チェックリスト」を実施し、評価点を50点以上	○現状把握	○調達先へ調査実施	—	—
	環境配慮商品の開発推進	○省エネ基準義務化をクリアする高断熱商品の開発と環境配慮商品の強化	○高断熱、環境配慮商品の開発	○断熱5商品 ○自然採風3商品		P14～16
	LCAを適用した環境配慮設計の推進	○新規自社開発商品の「環境配慮商品」開発比率を各年度100%	○100%	○100%		P13
環境経営および環境リスクへの対応	環境管理、監視体制の強化	○法令違反・重大環境事故の発生件数を各年度0件	○0件	○法令違反・重大環境事故の発生件数0件		P35
	産業廃棄物管理の徹底	○廃棄物処理法違反の発生件数を各年度0件	○0件	○廃棄物処理法違反の発生件数0件		P35
環境コミュニケーションの促進	情報開示 (CSR報告書発行)	○CSR報告書の年1回の発行およびホームページへの情報公開	○年1回発行	○「CSR報告書2018」の発行、ホームページで公開		—
	生物多様性の保全	○家族参加型の森づくり活動の継続	○年2回実施	○2回実施(6、11月)		P33
	地域社会との共生	○環境教室および清掃活動の実施	○年2回実施	○2回実施 ○環境教室(10月) ○全社一斉清掃活動(5月)		P20、P33～34
	環境教育	○従業員への環境教育の実施	○年2回実施	○3回実施 ○e-ラーニング「環境講座」(9、4月) ○環境家計簿(6月)		P33～34

 目標達成  目標未達成

## ■地球温暖化対策(省エネルギー対策)■

三協立山グループでは、地球環境問題を人類共通の最重要課題として認識しており、省エネ活動をはじめとする地球温暖化対策に継続的に取り組み、地道な活動を進めています。

### CO<sub>2</sub>排出量とエネルギー使用量

2018年度のCO<sub>2</sub>排出量の総量は、2017年度比で3.9%(約11千t-CO<sub>2</sub>)の削減となりました。これは、主に照明のLED化・設備のインバーター化などに取り組んだこととエネルギーロス削減などの省エネ活動を実施したことによります。

生産量原単位の対前年度比について、CO<sub>2</sub>排出量原単位は2017年度比で1.9%削減、エネルギー使用量原単位は2.3%削減となりました。

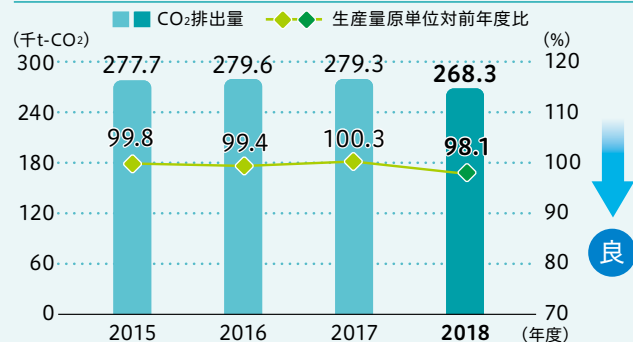
### 省エネルギー部会の開催

省エネルギー活動の中期環境行動目標の達成に向けて、工場部門、物流部門および事務部門の改善を推進するために、年4回(7・10・1・4月)開催しています。改善成功事例については、水平展開を図っています。

### 省エネルギー研修会の開催

省エネルギー活動の推進を図るため、研修会を実施しました。(一般財団法人)省エネルギーセンターより講師を招き、エネルギー管理担当者向けに管理標準のレベルアップ、計測記録データから見える省エネポイントについて研修を行いました。

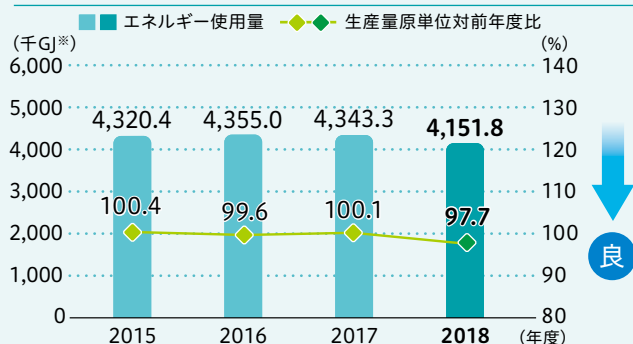
#### ●CO<sub>2</sub>排出量と生産量原単位対前年度比の推移



※算出根拠:地球温暖化対策の推進に関する法律に定められる排出係数による。(環境省平成22年3月改正)

※電力のCO<sub>2</sub>換算係数は、2013年度の値を使用しています。2010年度の値を使用した場合、2018年度のCO<sub>2</sub>排出量は対1990年比20.5%減となります。

#### ●エネルギー使用量と生産量原単位対前年度比の推移



※算出根拠 電 力:エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則

熱使用:資源エネルギー庁「エネルギー源別標準発熱量一覧表」

※GJ:ギガジュール



省エネルギー研修会

## ■ 廃棄物対策 ■

### 廃棄物対策

三協立山グループでは生産工程から定常的に発生する産業廃棄物の排出量抑制に取り組んでいます。

#### 産業廃棄物排出実績

2018年度の産業廃棄物排出量は、2017年度比7.8%削減(1.9千t減)となりました。これは金型洗浄工程で発生する廃液の排出量を削減したことなどによるものです。

産業廃棄物排出量原単位は、2017年度比で4.5%削減となりました。

リサイクル率は、98.1%でした。

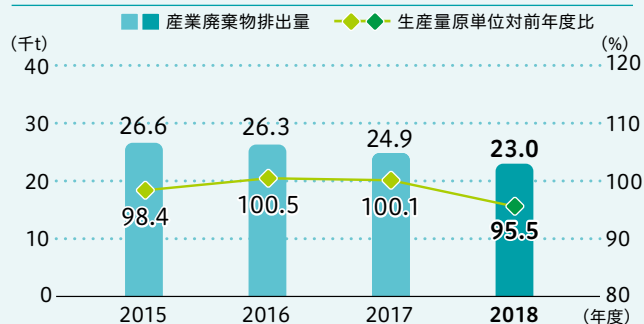
#### ゼロエミッション達成状況

2018年度は14工場中13工場でゼロエミッション(リサイクル率97%以上)を達成しました。

#### PCB管理

当社グループでは、PCBを含む電気工作物、安定器についてPCB廃棄物特別措置法に準拠して適正に処理、保管および管理をしています。

#### ● 産業廃棄物排出量と生産量原単位対前年度比の推移



#### PCB管理対象機器台数一覧 (2019年3月31日現在) (単位:台)

拠点名	高濃度PCB廃棄物			低濃度PCB	
	保管			保管	使用中
	電気工作物	安定器	試薬	混入廃棄物 (分析サンプル 除く)	混入 電気工作物
新湊	0	0	0	0	7
福岡	0	1	0	3	3
氷見	0	0	0	1	0
射水	0	0	0	3	1
高岡	0	44	0	3	0
奈呉	0	0	5	3	6
横浜	0	1	0	0	0
三協立山本社	0	0	0	2	2
奈呉物流センター (本社管轄)	1	0	0	0	0
合 計	1	46	5	15	19

※上記集計表には、使用中の電気工作物、安定器で、PCB含有の有無が未確認のものについては含まれていません。



## ■ 化学物質対策 ■

三協立山グループでは、PRTR\*法対象物質の管理および吹付塗装工程におけるVOC排出量の削減に努めています。

※PRTR(Pollutant Release and Transfer Register：環境汚染物質排出・移動登録)

※VOC(Volatile Organic Compounds：揮発性有機化合物)

### 化学物質管理

関連会社も含めた2018年度のPRTR法に基づく報告対象物質の取扱量の合計は、461.6tです。このうち、大気、水域への排出量は、取扱量の36.3%(167.6t)に相当し、その内の148.8tが大気に、18.8tが公共水域に排出されています。

以下にPRTR届出義務対象化学物質の排出量、移動量などを示します。

### PRTR届出義務対象物質(関連会社含む)

集計期間：2018年4月～2019年3月

(単位：t/年 ただし、ダイオキシン類はmg-TEQ)

番号	化学物質名	主な用途	取扱量	排出量			移動量		消費量
				大気	水域	土壌	事業所外	下水道	
31	アンチモン及びその化合物	難燃剤	1.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	1.3
53	エチルベンゼン	製品塗装	36.3	30.1	0.0	0.0	6.2	0.0	0.0
80	キシレン	製品塗装	65.2	58.4	0.0	0.0	6.6	0.0	0.2
87	クロム及び3価クロム化合物	アルミビレットの原料に配合	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.8
186	ジクロロメタン	ラッピング接着	9.2	9.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
243	ダイオキシン類	—	—	396.6	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
277	トリエチルアミン	製品塗装	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	製品塗装	4.1	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	製品塗装	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
300	トルエン	製品塗装	67.9	39.0	0.0	0.0	28.8	0.0	0.0
308	ニッケル	表面処理	17.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	17.3
309	ニッケル化合物	表面処理	17.4	0.0	2.6	0.0	1.4	0.0	13.4
355	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	塩ビの可塑剤	124.7	0.0	0.0	0.0	4.2	0.0	120.5
374	ふっ化水素及びその水溶性塩	アルミビレット製造時の溶湯除滓剤	9.1	0.2	2.4	0.0	0.0	0.0	6.5
405	ほう素化合物	表面処理	16.6	0.0	13.8	0.0	0.7	0.0	2.1
412	マンガン及びその化合物	アルミビレットの原料に配合	37.5	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	37.3
438	メチルナフタレン	各種炉燃料	15.5	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4
448	メチレンビス(4,1-フェニレン) = ジイソシアネート	ラッピング接着、発泡ウレタン	15.4	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	15.1
合 計			461.6	148.8	18.8	0.0	48.7	0.0	245.2

※上記集計表には、PRTR届出に必要な取扱量に達していない事業所の実績は含まれていません。

※事業場外への移動量：事業活動に伴って排出される産業廃棄物を、産業廃棄物処理業者に委託して場外へ移動する量

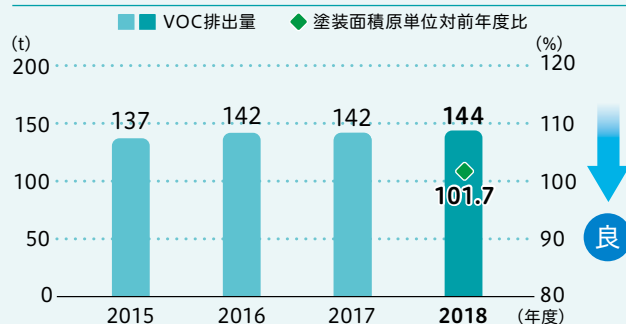
※消費量：対象物質が反応原料として消費された量、または製品に含有もしくは付着して場外に持ち出される量

### 吹付塗装工程におけるVOC排出量

2018年度のVOC排出量は、2017年度比1.4%(2.0t)の増加となりました。主な理由は、塗着効率の良い塗装機への更新および一部粉体塗装化を実施しましたが、色替え回数が多い物件が多く、洗浄用シンナーの使用量が増えたことによるものです。

塗装面積原単位について、VOC排出量原単位は2017年度比で1.7%増加となりました。

### ● VOC排出量と塗装面積原単位の推移



## ■環境コミュニケーションの促進(1)■

三協立山グループは、環境保全活動や環境負荷低減活動を地域社会、行政、従業員などのステークホルダーの方々と連携しながら推進しています。

### ツインリーフの森づくり

当社は、生物多様性の保護、CO<sub>2</sub>の削減および地域の自然保護活動に貢献することを目的に、富岡県が推奨する「企業の森づくり」に2013年4月から参画しています。高岡市の雑木林に従業員とその家族のボランティアで、これまでに2,500本の苗木を植樹し、下草刈などの維持活動を行っています。

#### 第16回(2018年6月)

下草刈活動、参加者43名

##### 参加者の感想

- カマで草を刈るのがとても楽しく、今までの活動でいちばん楽しかった。
- 思ったより大変でしたが、達成感があり気持ちよかった。

#### 第17回(2018年11月)

竹支柱設置と成長調査、参加者41名

##### 参加者の感想

- 植えた木の成長を見ることができて、うれしい。
- 子供たちがとても楽しんでいたので、参加してよかった。



2018年6月「下草刈」



2018年11月「竹支柱設置」「成長調査」

### 高岡市と協働で「環境教室」開催

2018年10月、高岡市の認定こども園かたかご幼稚園かたかご保育園において、高岡市と協働で「環境教室」を開催しました。これは、高岡市が「グリーンカーテン環境啓発事業<sup>(※1)</sup>」として、「こどもエコクラブ」に参加している高岡市の保育園・幼稚園(22ヶ所)に対し、企業と協働で行っているもので、当社は地元地域への社会貢献の一環として、2015年度より参画しています。

環境教室では、「○×クイズ」や「ゴミ分別ゲーム」を行い、参加した園児54名は楽しみながら、省エネやリサイクルについて学びました。

※1 高岡市「グリーンカーテン環境啓発事業」 高岡市は2012年より、次代を担う子供たちの環境・省エネに対する関心を高めるため「こどもエコクラブ」を結成し、その一環として、市内の保育園・幼稚園にゴーヤのグリーンカーテンを作り、環境教室の開催など環境啓発事業を行っている。



省エネや水、ごみの「○×クイズ」



紙パックやカン、ペットボトルなどの「ゴミ分別ゲーム」

## ■環境コミュニケーションの促進(2)■

### とやま環境フェア

2018年10月、「とやま環境フェア2018」が、富山県産業創造センター(高岡テクノドーム)で開催されました。このフェアは、エコライフをテーマに富山県などの主催で毎年開催されています。

当社も毎年出展しており、今年度は環境配慮商品の展示と親子向け工作を行いました。アルミについて学ぶクイズには、親子連れを中心にたくさんの方が挑戦し、終日大いににぎわいました。



来場者への説明風景

### 環境家計簿

当社グループでは、より多くの従業員が環境について理解を深め、主体的に取り組むことができるように、「環境家計簿」(家庭でのCO<sub>2</sub>削減の取り組み:2006年度より取り組み開始)を継続して実施しています。

2018年度までに延べ1123世帯が参加しており、家族で相談しながらCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいる家庭も多くあります。前年比でCO<sub>2</sub>排出量を大きく削減するなど優秀な実績をあげた参加者には景品を贈呈し、家庭でのCO<sub>2</sub>削減活動の活性化を促進しています。



環境家計簿2018

### 環境e-ラーニング

地球環境問題を理解し、高い環境意識を持った従業員を育成することを目的に、e-ラーニング「環境講座」を開講しました。

講座の内容は、当社の事業にかかわりの深い「地球温暖化(省エネルギー)」「廃棄物」「化学物質」と環境全般について出題しています。

2018年度は2回実施し、今後も継続して行っています。

**1. はじめに**

持続可能な社会を実現するためには、一人ひとりの環境意識の向上が重要です。この講座は、地球環境問題を理解し、高い環境意識を持った従業員を育成することを目的としています。

講座の内容は、当社の事業にかかわりの深い「地球温暖化(省エネルギー)」「廃棄物」「化学物質」と環境全般について出題しています。

ます、身近な環境

**2. 地球温暖化**

1. 上昇し続ける世界平均気温  
陸地と海上を合わせた世界平均地上気温は、1880年から2012年の期間に0.85°C上昇しました。また、最近30年の平均気温は、1850年以降のどの10年よりも高くなりました。1880年に観測が始まって以来、2015年は世界の平均気温が過去最高を記録し、最も暑い年になりました。1880

2. 増加し続ける二酸化炭素  
産業革命以来、CO<sub>2</sub>取り出し、経済を成る前に比べて40%以上の増加も、増加傾向が見られます。

3. 廃棄物問題  
2000年頃まで、一般廃棄物・産業廃棄物の排出量は、年数の経過に従って増加しました。特に、高度成長期(1960年代~1970年代)とバブル期(1980年代後半~1990年代前半)に急激に増加しています。2000年以降は、分別回収や各種リサイクルの進展など、循環型社会の形成が進むとともに、産業構造の変化や景気変動の影響もあり、減少傾向にあります。政府は、循環型社会形成のさらなる推進を図るため、法制度を整備するだけでなく、国民理解の促進や、各主体との連携強化を図るべく活動を実施しています。

環境e-ラーニング

### クールビズ、ウォームビズ運動

当社グループは、環境省が地球温暖化防止国民運動として提唱する「クールビズ運動」、「ウォームビズ運動」に賛同し、2005年度より継続して実施しています。

2018年度は、クールビズ期間を5月~9月、ウォームビズ期間を11月~3月として実施しました。

#### [冷暖房設定温度]

クールビズ:28°C、ウォームビズ:20°C



## ■ 環境経営および環境リスクへの対応 ■

三協立山グループでは、環境経営および環境リスクへの対応として、ISO14001の認証取得、環境管理・監視体制の強化、産業廃棄物管理の徹底等に取り組んでいます。

### ISO14001の認証取得

三協立山では、2008年度までに全ての工場において、ISO14001を認証取得しました。

ISO14001の取得は、環境マネジメントシステム構築の基本となるため、維持更新を図り、継続的にレベルアップに努めています。

### 環境パトロールの実施

当社グループでは、法令遵守、環境事故の未然防止および環境保全意識の向上を目的に、毎年関連会社も含めて全工場の環境パトロールを実施しています。契約書類、届出書類などが法令に準拠しているか、環境測定データが基準値を外れていないか、タンク類が液漏れを起こす危険性がないかなどについて書類チェックおよび現場確認を行っています。

2018年度も、引き続き法令違反はありませんでした。一部、軽微な指摘事項については、迅速に改善しています。

今後も環境パトロールを継続して実施し、法令遵守、環境事故の未然防止に努めています。

### 産業廃棄物処理施設の視察

当社グループでは、グループ内から排出された産業廃棄物が法令に準拠して適正に処理されているか確認するため、毎年計画的に産業廃棄物処理施設の視察を行っています。

2018年度は4ヶ所を視察し、いずれの施設も適正に処理していることを確認しました。

今後も継続的に視察を実施し、産業廃棄物の適正処理に努めています。

### 緊急事態への対応(氷見工場の例)

当社では、毎年地震・火災を想定した緊急事態対応の訓練を実施しています。

氷見工場の訓練では、震度5弱の地震が発生し、灯油タンク配管ジョイント部に亀裂が生じたことによる、灯油漏れを想定しました。漏れた灯油の外部流出を防ぐため、通路および側溝に、土のうで防油堤を築く訓練をしました。また、構内の側溝に流出した油の回収訓練も実施しました。

今後も毎年、訓練を繰返し行うことで、有事の際に各人がどういう行動を取るべきか再確認していきます。



重油タンクの確認



灯油タンクの確認



産業廃棄物処理施設の視察



灯油流出防止訓練



本部へ報告

## ■ 環境会計 ■

三協立山では、環境省発行の環境会計ガイドラインに基づき、環境保全に係わる費用と効果を定量的に把握して、環境投資と効果を評価しています。

### 2018年度環境会計結果

#### 環境保全コスト

単位：百万円

環境保全コストの分類	コスト項目の主な内容	設備投資		費用	
		2017年度	2018年度	2017年度	2018年度
1. 事業エリア内コスト	事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト	580	253	475	504
内 訳	1) 公害防止コスト	2	2	179	205
	2) 地球環境保全コスト	578	250	1	1
	3) 資源循環コスト	1	1	295	297
2. 上・下流コスト	グリーン購入など事業エリアの上流側で発生する環境負荷抑制のために必要なコスト	0	0	0	0
3. 管理活動コスト	環境マネジメントシステムの運用のためなどに必要なコスト	0	0	95	91
4. 研究開発コスト	環境負荷抑制に係わる製品の研究開発に必要なコスト	167	171	338	633
5. 社会活動コスト	地域住民の行う環境活動などへの寄付、支援のためのコスト	0	0	5	5
6. 環境損傷コスト	自然修復のために必要なコスト	0	0	0	0
合 計		747	424	913	1,232

#### 環境保全効果

環境パフォーマンス指標	単位	2017年度	2018年度	前年との差(環境保全効果)
エネルギー投入量	千GJ	4,343	4,152	191
CO <sub>2</sub> 排出量	千t-CO <sub>2</sub>	279	268	11
産業廃棄物排出量	千t	25	23	2
排水量	千t	10,363	9,823	540

#### 環境保全対策に伴う経済効果

単位：百万円

効果の内容	2017年度	2018年度
1. 省エネによるコスト削減	83	123
2. 有価物売却益	178	249
3. ダンボール、緩衝材などの削減	1	8
合 計	262	380

#### 2018年度環境会計の分析

2018年度の環境保全コストとして、設備投資に4億24百万円、費用に12億32百万円を投入しました。設備投資の主なものとして環境配慮商品を開発するための設備投資に1億71百万円、費用の主なものとして、廃棄物処理などに2億97百万円投入しました。

設備投資は、2017年度に比べて、3億23百万円減少、費用は、3億19百万円増加しました。

環境保全対策に伴う経済効果は、3億80百万円で、2017年度に比べて1億18百万円増加しました。

●集計期間・・・2018年6月1日～2019年5月31日

●集計範囲・・・三協立山(株)

## ■ 生産事業所・主要関連会社の環境管理データ(2018年度) ■

### 三協アルミ社

工場名		新湊	佐加野	福光	福岡西	福岡西福岡分		
所在地		富山県射水市新堀23-1	富山県高岡市佐加野2-2	富山県南砺市小林100	富山県高岡市福岡町矢部777	富山県高岡市福岡町矢部1		
敷地面積	m <sup>2</sup>	403,588	149,023	118,215	46,843	112,568		
建物延面積	m <sup>2</sup>	155,847	79,963	55,308	22,083	56,586		
CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	9,804	2,380	2,391	1,021	4,000		
エネルギー使用量	GJ	172,894	38,205	38,600	17,077	67,009		
産業廃棄物排出量	t	795	29	55	120	540		
産業廃棄物リサイクル率	%	99.5	100	100	100	100		
水資源使用量	t	625,527	86,061	36,070	131,200	261,531		
排出ガス	SOx濃度	ボイラー	ppm	—	【490以下】 32.42	—	—	
	ばいじん	ボイラー	g/m <sup>3</sup> N	【0.2以下】 <0.01	【0.15以下】 <0.01	—	—	
		乾燥炉	g/m <sup>3</sup> N	—	—	—	【0.2以下】 <0.05	
		加熱炉	g/m <sup>3</sup> N	—	—	—	【0.2以下】 <0.01	
	窒素酸化物	ボイラー	ppm	【150以下】 28	【180以下】 110	—	—	
		乾燥炉	ppm	—	—	—	【230以下】 22	
加熱炉		ppm	—	—	—	【180以下】 38		
公共用水域	pH	—	【6.0~8.5】 6.5~8.1	【6.5~8.5】 6.5~8.5	【5.8~8.6】 7.5	—	【5.8~8.6】 7.0~7.5	
	BOD	mg/l	—	【20以下】 15.0	【20以下】 1.5	—	【20以下】 15.0	
	COD	mg/l	【20以下】 5.2	【20以下】 4.7	—	—	【160以下】 8.7	
	SS	mg/l	【50以下】 <5.0	【30以下】 10.1	—	—	【30以下】 7	
	油分	mg/l	【3以下】 <0.5	【3以下】 <0.5	—	—	【5以下】 <1	
	ホウ素	mg/l	【10以下】 1	—	—	—	—	
	クロム	mg/l	【2以下】 <0.2	—	—	—	—	
	六価クロム	mg/l	【0.5以下】 <0.02	—	—	—	—	
	フッ素	mg/l	【15以下】 <0.8	—	—	—	—	
	全窒素	最大	mg/l	【60以下】 3.5	【60以下】 2.1	—	—	【120以下】 9.7
	全りん	最大	mg/l	【8以下】 0.39	【8以下】 <0.05	—	—	【16以下】 1.1
P R T R 取 扱 量	エチルベンゼン	t	8.9	—	—	—	—	
	キシレン	t	18.4	1.2	—	—	—	
	1,2,4-トリメチルベンゼン	t	3.8	1.0	—	—	—	
	トルエン	t	30.8	1.1	—	—	—	
	ニッケル化合物	t	2.1	—	—	—	—	
	ホウ素化合物	t	1.7	—	—	—	1.8	
	メチルナフタレン	t	—	1.2	—	—	—	

- ①「【】」は基準値を示します。国・県・市町村で定めた値と同等かもしくはより厳しい値に設定しています。
- ②「-」の項目は基準値がない対象施設のない項目です。
- ③略称で表記した項目の内容は次のとおりです。SOx:硫黄酸化物濃度、NOx:窒素酸化物濃度、pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、COD:化学的酸素要求量、SS:水中懸濁物質濃度
- ④「<」は数値が表示データ未満であることを示します。
- ⑤「ND」は対象物が不検出(Not Detected)であることを示します。
- ⑥排出ガス、公共用水域の数値は最大値(ただし、pHのみ最小値と最大値)を記載しています。



## ■ 生産事業所・主要関連会社の環境管理データ(2018年度) ■

## 三協アルミ社

## 三協マテリアル社

工場名		氷見	福野	奈呉	石川	射水							
所在地		富山県氷見市上田41-2	富山県南砺市本江2600-1	富山県射水市奈呉の江8-3	石川県羽咋郡宝達志水町杉野屋ぬみ1-1	富山県射水市奈呉の江13-3							
敷地面積	m <sup>2</sup>	68,575	118,012	151,457	146,963	268,119							
建物延面積	m <sup>2</sup>	21,558	53,157	41,879	42,195	135,308							
CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	772	3,210	70,271	22,092	125,185							
エネルギー使用量	GJ	12,385	51,055	1,100,354	373,004	2,074,455							
産業廃棄物排出量	t	26	33	504	2,054	18,663							
産業廃棄物リサイクル率	%	100	100	93.4	100	98.4							
水資源使用量	t	2,940	68,150	1,343,833	430,860	6,400,171							
排出ガス	SOx濃度	ボイラー K値	—	—	—	【8.00以下】	ND	—					
		乾燥炉 K値	—	—	—	【8.00以下】	ND	—					
		加熱炉 K値	—	—	—	【8.00以下】	ND	—					
		溶解炉 m <sup>3</sup> N/Hr	—	—	【4.56】	1.00	—	—					
	ばいじん	ボイラー g/m <sup>3</sup> N	【0.1以下】	0.01	—	—	【0.1以下】	<0.02	【0.1以下】	<0.01			
		乾燥炉 g/m <sup>3</sup> N	—	—	—	—	【0.2以下】	<0.02	—	—			
		加熱炉 g/m <sup>3</sup> N	—	—	【0.15以下】	0.01	【0.2以下】	<0.01	【0.15以下】	<0.01			
		溶解炉 g/m <sup>3</sup> N	—	—	【0.15以下】	0.03	—	—	—	—			
	窒素酸化物	ボイラー ppm	【140以下】	84	—	—	【150以下】	18	【180以下】	77			
		乾燥炉 ppm	—	—	—	—	【230以下】	23	—	—			
		加熱炉 ppm	—	—	【120以下】	78	【180以下】	96	【180以下】	140			
		溶解炉 ppm	—	—	【150以下】	140	—	—	—	—			
	ダイオキシン	溶解炉 ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	—	—	【5以下】	0.92	—	—	—	—			
	公共用水域	pH	—	【5.8~8.6】	7.2~7.5	【5.8~8.6】	6.7	【5.5~8.5】	7.0~7.3	【5.8~8.6】	6.8~7.3	【6.0~8.5】	6.1~8.2
		BOD	mg/l	【30以下】	6.0	【20以下】	1.4	—	—	【30以下】	4.9	【20以下】	8.6
		COD	mg/l	—	—	—	—	【20以下】	2.9	—	—	【20以下】	8.6
SS		mg/l	【50以下】	10.0	【10以下】	2.0	【50以下】	15	【30以下】	<2	【50以下】	13	
油分		mg/l	【15以下】	<1	【15以下】	ND	【3以下】	0.9	【5以下】	<0.5	【2以下】	ND	
ホウ素		mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—	【10以下】	3.5	
フッ素		mg/l	—	—	—	—	—	—	—	—	【8以下】	0.4	
ダイオキシン		pg-TEQ/L	—	—	—	—	【10以下】	0.14	—	—	—	—	
P R T R 取 扱 量	クロムおよび3価クロム化合物	t	—	—	—	18.0	—	—	—	—	—		
	トリエチルアミン	t	—	—	—	—	—	—	—	—	6.5		
	ニッケル	t	—	—	—	—	—	1.5	—	—	—		
	ニッケル化合物	t	—	—	—	—	—	1.8	—	—	13.2		
	フッ化水素およびその水溶性塩	t	—	—	—	8.1	—	1.1	—	—	—		
	ホウ素化合物	t	—	—	—	1.6	—	2.3	—	—	8.7		
	マンガンおよびその化合物	t	—	—	—	37.1	—	—	—	—	—		
	メチルナフタレン	t	—	—	—	17.9	—	—	—	—	—		
	メチレンビス(4,1-フェニル)=ジイソシアネート	t	2.9	—	—	—	—	—	—	—	—		

- ①「【】」は基準値を示します。国・県・市町村で定めた値と同等かもしくはより厳しい値に設定しています。
- ②「-」の項目は基準値がないか対象施設のない項目です。
- ③略称で表記した項目の内容は次のとおりです。SOx：硫黄酸化物濃度、NOx：窒素酸化物濃度、pH：水素イオン濃度、BOD：生物学的酸素要求量、COD：化学的酸素要求量、SS：水中懸濁物質濃度
- ④「<」は数値が表示データ未満であることを示します。
- ⑤「ND」は対象物が不検出(Not Detected)であることを示します。
- ⑥排出ガス、公共用水域の数値は最大値(ただし、pHのみ最小値と最大値)を記載しています。

## ■ 生産事業所・主要関連会社の環境管理データ(2018年度) ■

三協マテリアル社

夕ヤマアドバンス社

項目		工場名	高岡	新湊東	戸出	横浜			
所在地			富山県高岡市北島851	富山県射水市新堀28-1	富山県高岡市戸出春日802	神奈川県横浜市金沢区大川6-1			
敷地面積	m <sup>2</sup>		95,825	78,264	12,653	29,386			
建物延面積	m <sup>2</sup>		56,385	13,398	6,035	12,318			
CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>		1,471	8,325	1,786	845			
エネルギー使用量	GJ		24,083	136,989	29,158	14,057			
産業廃棄物排出量	t		49	16	33	63			
産業廃棄物リサイクル率	%		100	100	100	100			
水資源使用量	t		91,159	105,152	15,941	1,276			
排出ガス	ばいじん 窒素酸化物	加熱炉	g/m <sup>3</sup> N	—	【0.2以下】	0.02	—	—	
		加熱炉	ppm	—	【180以下】	36	—	—	
公共用水域	pH	—	【5.8~8.6】	6.7~8.5	【5.8~8.6】	7.0~7.7	【5.8~8.6】	7.4	—
	BOD	mg/l	【20以下】	19	—	—	【25以下】	1.6	—
	SS	mg/l	【100以下】	18	—	—	【120以下】	4	—
	油分	mg/l	【5以下】	<0.5	【5以下】	<0.5	【15以下】	ND	—
P R T R 取 扱 量	トリエチルアミン	t	—	—	—	—	—	—	6.6

① 「【】」は基準値を示します。国・県・市町村で定めた値と同等かもしくはより厳しい値に設定しています。

② 「-」の項目は基準値がないか対象施設のない項目です。

③ 略称で表記した項目の内容は次のとおりです。SO<sub>x</sub>:硫黄酸化物濃度、NO<sub>x</sub>:窒素酸化物濃度、pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、COD:化学的酸素要求量、SS:水中懸濁物質濃度

④ 「<」は数値が表示データ未満であることを示します。

⑤ 「ND」は対象物が不検出(Not Detected)であることを示します。

⑥ 排出ガス、公共用水域の数値は最大値(ただし、pHのみ最小値と最大値)を記載しています。

## ■ 生産事業所・主要関連会社の環境管理データ(2018年度) ■

### 関連会社(国内)

工場名		協立アルミ(本社)	協立アルミ(井口)	STメタルズ(本社)	STメタルズ(西朴木)	STメタルズ(海老坂)
所在地		富山県南砺市久戸10	富山県南砺市井口110	高岡市福岡町矢部1009	富山県氷見市西朴木38	富山県氷見市上田子字笹谷内58
敷地面積	m <sup>2</sup>	116,000	22,000	16,769	41,996	110,240
建物延面積	m <sup>2</sup>	62,000	16,000	10,619	14,684	11,514
CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	2,645	995	448	569	637
エネルギー使用量	GJ	44,000	16,843	6,943	8,793	9,879
産業廃棄物排出量	t	864	838	3	1	8
産業廃棄物リサイクル率	%	95.8	98.5	97.0	97.2	99.0
水資源使用量	t	48,260	2,494	968	1,210	1,919

工場名		三協化成	サンクリエイト	カシイ	三精工業(本社)	三精工業(有磯)
所在地		富山県高岡市福岡町下向田3-1	富山県南砺市岩武新80番地の1	富山市三郷18番地	富山県射水市奈呉の江13番地の8	富山県射水市有磯二丁目33番地の4
敷地面積	m <sup>2</sup>	66,743	47,082	28,275	46,326	30,533
建物延面積	m <sup>2</sup>	16,435	7,672	16,809	30,533	16,150
CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	3,017	1,324	352	2,584	1,833
エネルギー使用量	GJ	51,463	28,689	6,344	44,884	31,829
産業廃棄物排出量	t	200	112	40	114	12
産業廃棄物リサイクル率	%	94.9	78.0	79.1	91.8	97.4
水資源使用量	t	126,819	4,710	7,674	362	206

工場名		石川精機	三協ワシメタル	三協サーモテック行田	三協サーモテック上野原
所在地		愛知県西尾市寺津町五十間7	富山県高岡市長慶寺575	埼玉県行田市富士見町1-12-13	山梨県上野原市上野原8154-25
敷地面積	m <sup>2</sup>	11,119	24,000	11,513	9,580
建物延面積	m <sup>2</sup>	6,030	15,503	5,505	3,234
CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	2,256	5,963	400	536
エネルギー使用量	GJ	57,711	92,338	7,397	10,226
産業廃棄物排出量	t	242	335	4	2
産業廃棄物リサイクル率	%	100	95.1	100	59.3
水資源使用量	t	3,553	113,232	670	770

### 関連会社(海外)

会社・工場名		Sankyo Tateyama Europe BVBA	ST Extruded Products Germany GmbH	三協立山押出製品(天津)有限公司	Sankyo Tateyama Alloy(Thailand) Co.,Ltd.	Thai Metal Aluminium Co.,Ltd.
国名		ベルギー	ドイツ	中国	タイ	タイ
CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	4,113	34,979	14,531	1,920	20,219
エネルギー使用量	GJ	142,338	719,842	134,752	38,612	371,707
水資源使用量	t	0	116,417	22,000	7,628	271,918

会社・工場名		Thai-Aust Aluminium Co.,Ltd.	Sankyo Engineering (Thailand) Co.,Ltd.	佛山三協電子有限公司	SANKYOTATEYAMA PHILIPPINES INC.	上海立山商業設備有限公司
国名		タイ	タイ	中国	フィリピン	中国
CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	327	766	260	85	2,829
エネルギー使用量	GJ	6,420	15,282	3,921	1,668	43,613
水資源使用量	t	8,161	5,806	1,712	4,866	23,025



# 三協立山 会社概要

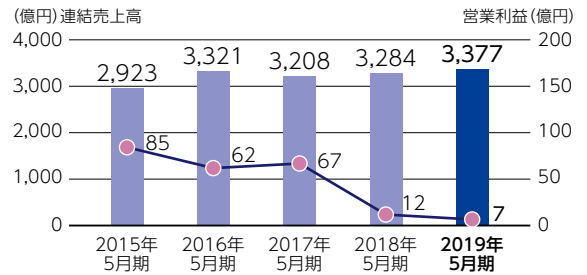
**会社名** 三協立山株式会社  
 (英文名称 Sankyo Tateyama, Inc.)  
**設立年月日** 1960年6月20日  
**所在地** 本社 富山県高岡市早川70番地  
 東京オフィス  
 東京都中野区中央1-38-1<住友中野坂上ビル20F>  
**代表者** 代表取締役社長 山下 清胤  
**URL** <https://www.st-grp.co.jp/>

(2019年5月期)

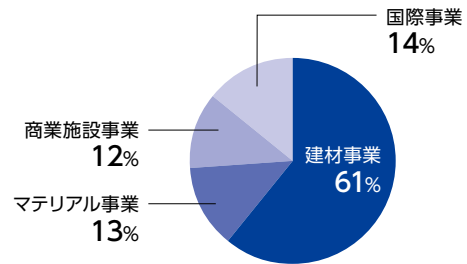
**資本金** 150億円  
**従業員数** 5,469名  
**連結従業員数** 11,188名  
**連結売上高** 3,377億89百万円  
**営業利益** 7億38百万円  
**総資産** 2,624億26百万円  
**事業内容**

- ビル用建材・住宅用建材・エクステリア建材の開発・製造・販売。アルミニウムおよびその他金属の圧延加工品の製造・販売。
- アルミニウムおよびマグネシウムの鋳造・押出・加工ならびにその販売。
- 店舗用汎用陳列什器の販売。規格看板・その他看板の製造・販売。店舗および関連設備のメンテナンス。

## ○連結売上高および営業利益



## ○事業別売上げ構成比 (2019年5月期)



## 三協立山株式会社

### 三協アルミ社<建材事業>

<b>住宅建材</b>	玄関ドア、窓、防犯配慮商品、インテリア建材、窓まわり商品、その他
<b>エクステリア建材</b>	門扉、フェンス、カーポート、テラス、サンルーム、サイクルポート、通路シェルター、その他
<b>ビル建材</b>	サッシ・ドア、カーテンウォール、改装、フロント、手すり、内外装建材、環境商品、その他

### 三協マテリアル社<マテリアル事業>

<b>アルミニウム、マグネシウムの鋳造・押出・加工</b>	押出加工品採用実績：電気機器、輸送機器、産業機械、OA機器、土木・仮設資材、家具、福祉機材、その他
	鋳造：アルミニウム合金ビレット、マグネシウム合金ビレット

### タテヤマアドバンス社<商業施設事業>

<b>商業施設</b>	汎用・専用什器、カウンター、ディスプレイ什器、その他
<b>サイン</b>	スタンドサイン、ファサードサイン、突出しサイン、大型サイン、壁面・吊下げサイン、掲示板、屋内外サイン
<b>店舗メンテナンス</b>	店舗メンテナンス、店舗リニューアル

### 国際事業

海外でのアルミニウム鋳造、押出、加工

## 対象期間

2018年6月1日から2019年5月31日

当報告書では、上記期間を「2018年度」と表記しています。活動内容については、一部2017年度以前のもの、および2019年度のものも含まれます。

## 対象範囲

### ●三協立山株式会社

- 三協アルミ社：新湊工場、佐加野工場、福光工場、福岡西工場、福岡西工場福岡分工場、氷見工場、福野工場
- 三協マテリアル社：奈良工場、石川工場、射水工場、新湊東工場、高岡工場、戸出工場
- タテヤマアドバンス社：横浜工場

### ●関連会社：

ST物流サービス、協立アルミ、三協化成、サンクリエイト、三精工業、STメタルズ、石川精機、三協ワシメタル、三協サーモテック、Sankyo Tateyama Philippines Inc.、佛山三協電子有限公司、Sankyo Engineering (Thailand) Co.,Ltd.、上海立山商業設備有限公司、Sankyo Tateyama Alloy(Thailand)Co.,Ltd.、Thai Metal Aluminium Co.,Ltd.、Thai-Aust Aluminium Co.,Ltd.、Sankyo Tateyama Europe BVBA、ST Extruded Products Germany GmbH、三協立山押出製品(天津)有限公司

## 参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」

## シンボルマーク「ツインリーフ」

ハート型の葉を持つ新芽のマークは、覚えやすく親しみやすいかたちです。このマークを介して、お客様、お得意様、株主・投資家の皆様はもちろん、地域の方々や社員との良好なコミュニケーションを築けるように願っています。人と人、社会と企業というつながりをフリーハンドの曲線でやわらかく表現し、シンボル化しています。「社会と私たち」「お客様と私たち」「環境と私たち」…など“心と心をつなぐシンボル”として位置付けています。





### 三協立山グループ 「CSR 報告書 2019」を読んで

神戸大学大学院 経営学研究科  
教授 國部 克彦

#### 環境技術で社会に貢献

三協立山グループの「CSR 報告書2019」の特徴は、環境技術で豊かな暮らしの実現に貢献していることを強調している点です。窓と換気のハイブリッド化により超高断熱性能を実現した「DI窓」、難燃性マグネシウム合金を用いた世界最大級の高速鉄道車両部品や、風の力で換気を実現する「風力すべり出し窓」など、多数の高度な技術を生かした製品で社会に貢献しています。このような環境や社会のサステナビリティに役立つ多様な技術をもって、さらに進化し続けることは高く評価できます。今後は、このような環境や社会に貢献する製品群が、実際にどのように持続可能な社会に貢献するのかについて、定量的な評価も必要になると思います。これらの製品はSDGsにも貢献することが謳われているので、その具体的な影響を一部でもよいので定量化することができれば、三協立山グループの社会的な意義が明確になると思います。


#### 社員の顔の見える活動を

三協立山グループは、「社会との調和」、「人間尊重」、「環境との調和」についても、包括的な情報開示をしており、バランスのとれたCSR活動を実践していると評価することができます。ただ、読者としては、包括的な開示だけでなく、三協立山グループがこれらの活動に対して、どのようなところに重点を置いているのかも知りたいと思います。CSRの世界では、すべての活動を平均的に行うのではなく、重要度の高い活動に注力することが求められます。そのためには活動のマテリアリティ(重要度)分析などを行って、メリハリのある対応も有効でしょう。また、プログラムに参加している社員の顔の見えるような情報開示も検討されてはいかがでしょうか。CSR活動の主役は社員ですので、社員の自発的な活動を促すような仕組み作りが大切になると考えます。

#### コーポレートガバナンスとCSR

コーポレートガバナンスはさらなる強化をされていることが分かりますが、このような強化がCSRにどのような影響を及ぼすのかも重要なポイントになります。社長以外の役員や社外取締役がCSRに対してどのような見解を持っているのかも、企業のCSRの今後を左右します。CSRは、企業の社会に対する責任ですから、外部の声を積極的に取り入れて、活動に反映させることが重要で、コーポレートガバナンスの強化もそれを後押しすることを期待しています。



 三協立山株式会社

総務部 CSR・コンプライアンス推進課  
〒933-8610 富山県高岡市早川70番地  
電話 0766-20-2550 FAX 0766-20-2082  
ホームページアドレス <https://www.st-grp.co.jp/>